

第 4 章

環境に関するアンケート調査結果

第4章 環境に関するアンケート調査結果

第1節 市民アンケート結果

1-1 調査方法

(1) 調査の目的

中央市の環境保全に対する市民の意識(県人会・県外者含む)と日常の行動状況及び市民の環境保全施策に関する意見、要望等について把握するとともに、今後の課題を明らかにし、新たに策定する「第2次中央市環境基本計画」に本調査結果を反映させることを目的として実施しました。

(2) 調査対象

① 調査地域等

項目	対象
調査地域	中央市全域(田富地区、玉穂地区、豊富地区)
調査対象	市内在住 18歳以上の男女
調査対象数	1,000人

② 調査対象の内訳【単純無作為抽出による】市民 男女各500人(合計1,000人)

図表4-1 アンケートの年代別配付状況

区分	全体	田富地区		玉穂地区		豊富地区		男女合計
		男	女	男	女	男	女	
10代(18~19歳)	1.7%	4	4	2	2	3	2	17
20代(20~29歳)	11.9%	26	34	22	21	5	11	119
30代(30~39歳)	15.7%	45	39	27	28	11	7	157
40代(40~49歳)	15.8%	39	34	38	26	9	12	158
50代(50~59歳)	16.5%	42	32	31	33	17	10	165
60代(60~69歳)	17.7%	50	49	23	22	19	12	175
70歳以上(70~79歳)	20.9%	44	58	32	43	11	21	209
合計	100%	250	250	175	175	75	75	1,000

(3) 調査項目

No	調査内容
1	回答者の基本情報(性別、年齢、住居地区、家族構成等)
2	本市の環境全般について
3	地球環境問題について
4	リニア中央新幹線について
5	自由意見(中央市の環境行政全般についてのご意見・ご望などについて)

(4) 調査期間 平成30年8月1日(水) ~ 9月14日(金)まで

(5) 調査方法 郵送によるアンケート調査

(6) アンケートの配付方法及び回収率

図表 4-2 アンケートの配付、回収状況

区 分	単位	田富地区	玉穂地区	豊富地区	合 計
① アンケート配付比率	%	50%	35%	15%	100%
② アンケート配付件数	件	500	350	150	1,000
③ アンケート回収件数	件	280	176	76	532
④ アンケート回収率	%	56.0%	50.3%	50.7%	53.2%

① アンケートの配付について

- ・アンケートの配付の総数は 1,000 件とし、男女比率は 1:1 の各 500 人を抽出しました。
- ・更に、配付対象者は年齢構成も考慮し選定しました。その詳細は「図表 4-1」に示します。

② アンケートの配付の比率について

- ・アンケートの配付の比率は人口比率を考慮し、田富地区 50%、玉穂 35%、豊富地区 15%としました。

③ アンケート回収率について

- ・アンケートの全体回収率は 53.2%で地区別回収率に大きな差はなく、いずれの地区も 50%以上の数値となっています。特に、田富地区が最も高く約 56.0%の回収率となりました。また、市民の環境保全に対する関心度は高く、自由意見欄にも多くの意見をいただくとともに、本アンケートの実施について、家族での話し合いの場を設けることができた等、称賛の意見もいただきました。

◆市民アンケート回収結果 《回収件数 532 人／送付件数 1000 人》

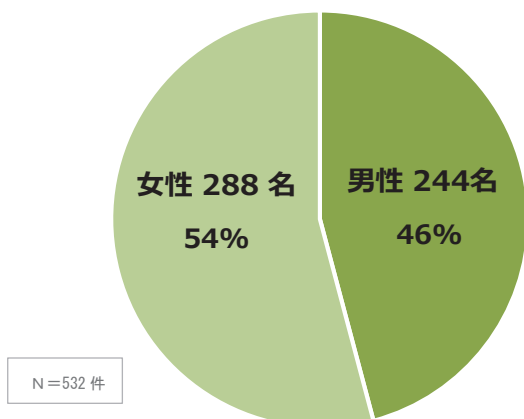
回答あり 53.2%

回答なし 46.8%

1-2 調査結果

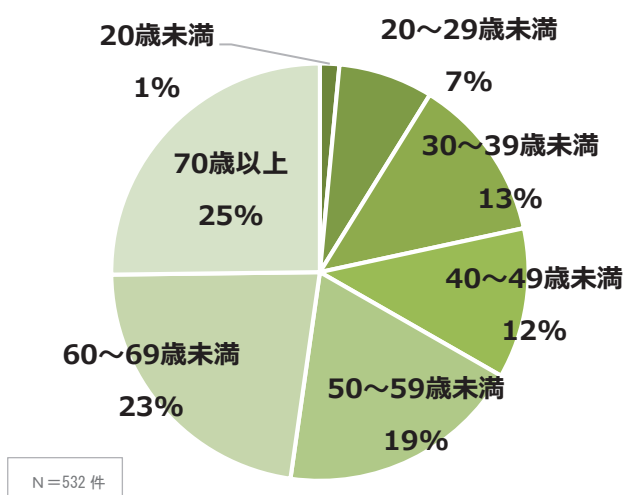
1. 回答者の基本情報

【1】 男性・女性どちらですか



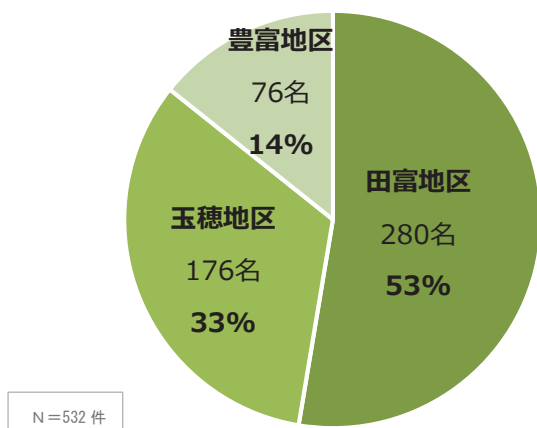
532人の市民の皆様にご回答をいただきました。回答者の男女比率は女性が男性を8ポイント上回り、環境に対する関心度は女性の方が高い傾向となっています。

【2】 年齢（分別区分等）



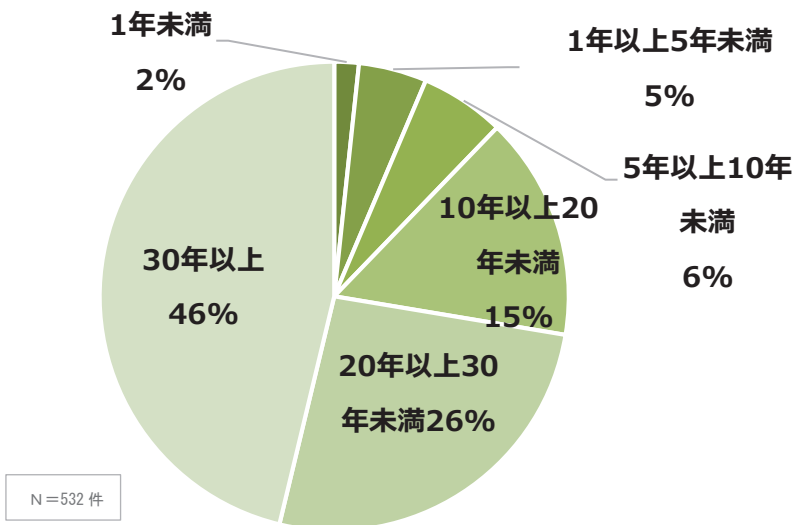
年齢別の回答者の比率は、70歳以上が25.2%（532人中134人）、次いで60歳代が22.6%、50歳代が19.0%となっています。回答者の約67%を50歳以上の方が占めています。

【3】 お住まいの地区はどこですか（分別区分等）



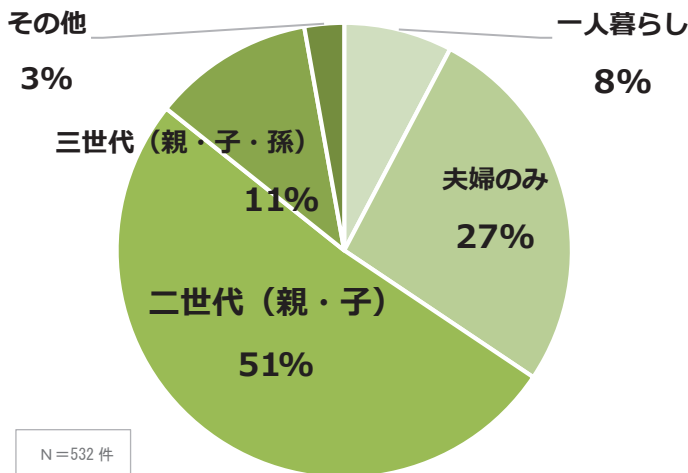
田富地区が回収者数も多く、回収率も高くなっています。ただし、配付数に対する回収率は3地区とも50%以上であり、地区による環境への関心度の大きな差はありませんでした。

【4】 居住年数は通算何年になりますか



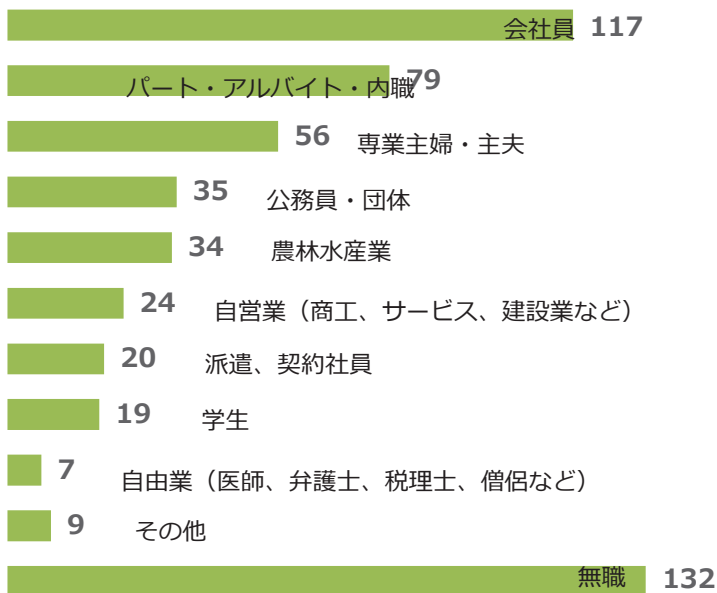
居住年数については、回答者のほぼ半分(46%)が30年以上本市に居住されている方々でした。また、20年以上を含めると回答者の72%の高い比率を占める結果となっています。本結果から長年中央市に居住する皆様が、本市の環境に強い関心を持っていることがわかります。

【5】 家族構成をお答えください



回答者の家族構成は、全体の約半数が二世世代家族、次いで夫婦のみの家族が27%となっています。

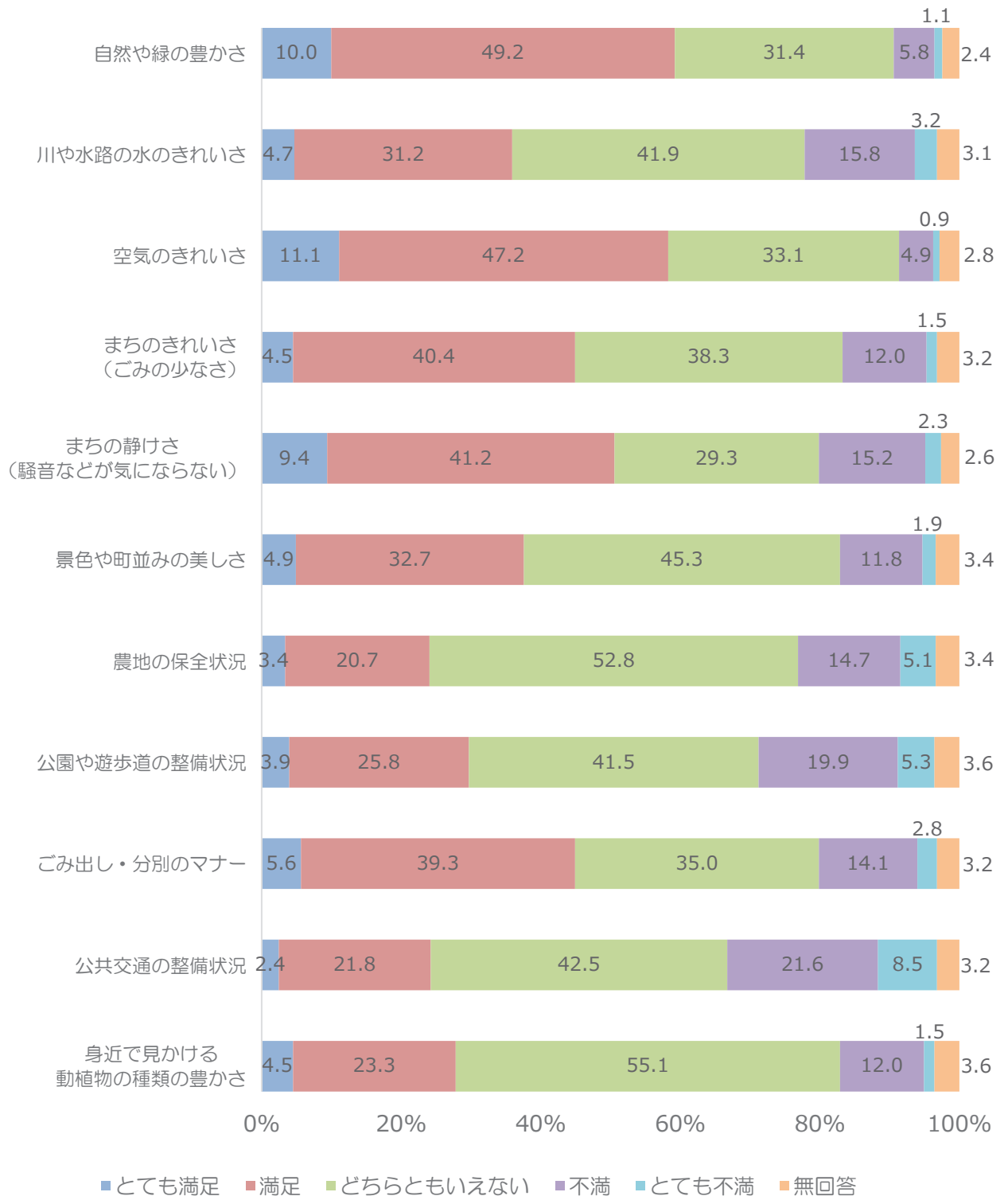
【6】 あなたの職業（兼業の方は主な職業）



回答者総数 532 人の内、現状特に仕事を持っていない方が 132 人(約 25%)、会社員が 117 人(約 22%)で約全体の半数を占めています。

2. 環境に配慮した活動について

問 1 - 1 あなたは、お住まいの周辺環境について、どのくらい満足していますか。



項目	調査年度	満足の割合	不満の割合
自然や緑の豊かさ	H30	59.2	7.0
	H25	56.3	5.5
	H20	50.0	12.7
川や水路の水のきれいさ	H30	35.9	19.0
	H25	33.2	22.5
	H20	25.0	31.6
空気のきれいさ	H30	58.3	5.8
	H25	55.4	6.6
	H20	44.7	14.4
まちのきれいさ (ごみの少なさ)	H30	44.9	13.5
	H25	42.8	12.1
	H20	27.0	21.8
まちの静けさ (騒音などが気にならない)	H30	50.6	17.5
	H25	39.4	25.7
	H20	32.5	31.2
景色や町並みの美しさ	H30	37.6	13.7
	H25	39.0	9.0
	H20	28.0	16.3
農地の保全状況	H30	24.1	19.7
	H25	23.2	13.3
	H20	18.1	20.1
公園や遊歩道の整備状況	H30	29.7	25.2
	H25	35.9	17.5
	H20	30.6	28.0
ごみ出し・分別のマナー	H30	44.9	16.9
	H25	47.2	15.0
	H20	38.5	25.0
公共交通の整備状況	H30	24.2	30.1
	H25	25.0	24.5
	H20	16.6	34.6
身近で見かける 動植物の種類の豊かさ	H30	27.8	13.5
	H25	29.1	11.6
	H20	22.6	19.2

※1 《満足の割合》は「とても満足」+「満足」の合計
《不満の割合》は「とても不満」+「不満」の合計

※2 今回結果の文字色
前回より結果が良かった場合は「赤色」
結果が悪くなった場合は「青色」

※2-1 項目が「塗りつぶしみどり色」
前回より《満足の割合》は高くなり、
《不満の割合》が下がった「赤色」

※2-2 項目が「塗りつぶしオレンジ色」
前回より《満足の割合》は下がり、
《不満の割合》は増えた
文字：青色

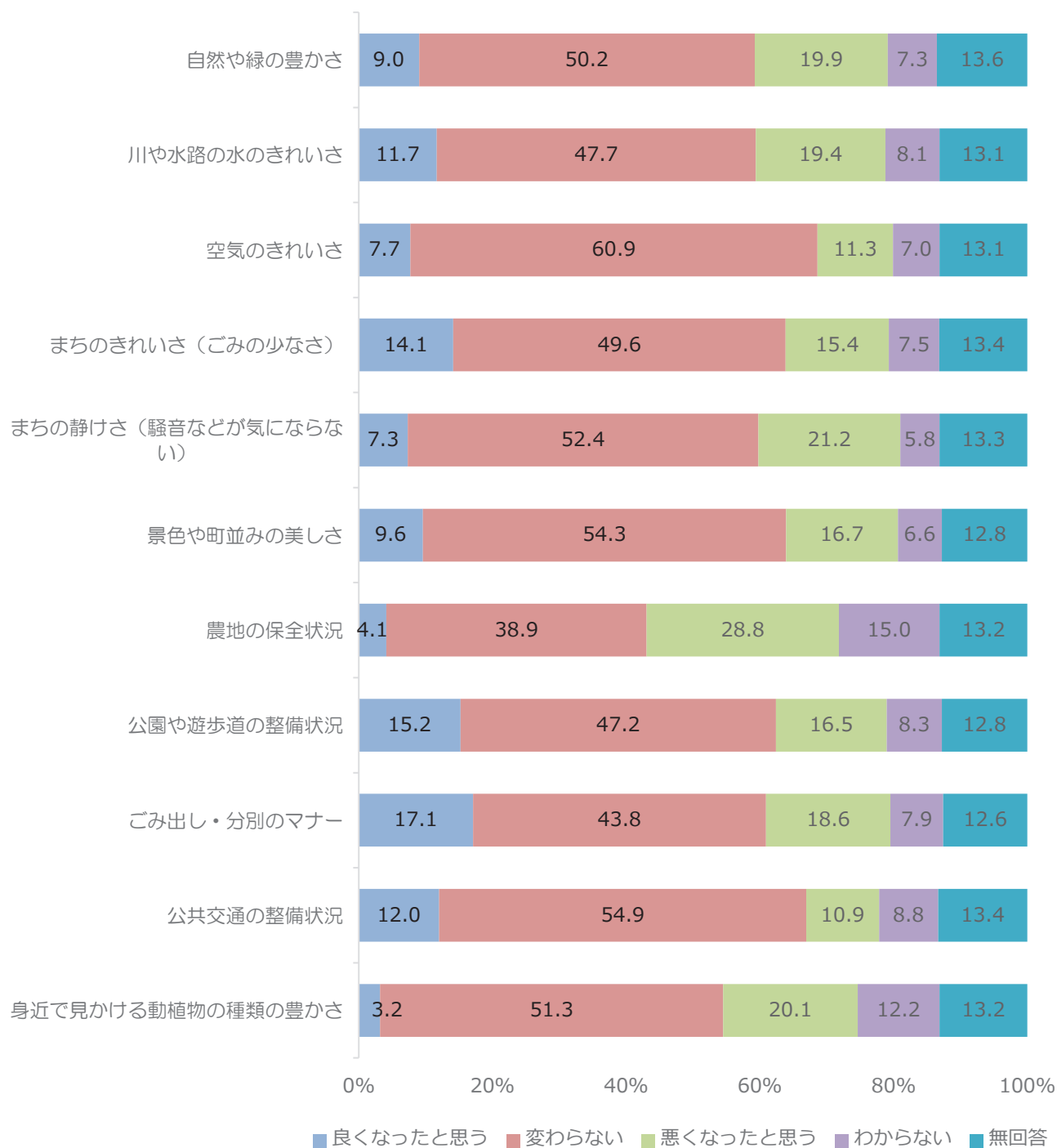
※2-3 項目が「塗りつぶしなし」
前回より《満足の割合》は高くなり、
《不満の割合》が増えた
文字：満足は赤色 不満は青色

◆今現在の周辺環境の満足度

満足度が向上し、不満足度が減少した項目は、「空気のきれいさ」、「まちの静けさ」、「川や水路の水のきれいさ」でした。また、最も満足度が高かった項目は「自然や緑の豊かさ」で過去の調査と同様な傾向を示しています。

一方、不満足度が高い項目は「公共交通の整備状況」「公園や遊歩道の整備状況」となっています。この2項目についても過去2回の調査と同様な傾向を示していました。過去の調査から大きく変化した項目は「まちの静けさ」「まちのきれいさ」で両項目とも改善傾向を示していました。

問 1 - 2 以前(10年程度前)に比べて、環境がどのように変化してきましたか。



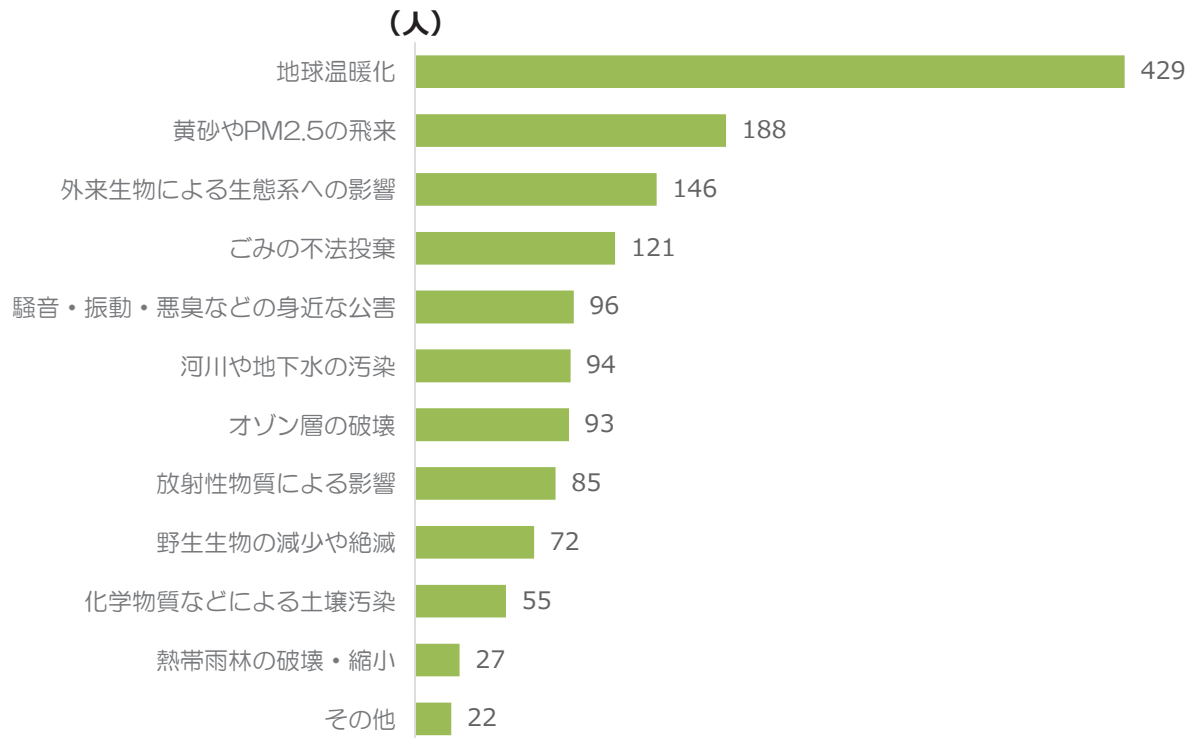
◆10年前の周辺環境との比較

「良くなったと思う」の回答が多かった項目は「ごみ出し・分別のマナー」、「公園や遊歩道の整備」、「まちのきれいさ」、「公共交通の整備」となっています。

一方、「悪くなったと思う」の回答が多かった項目は「農地の保全状況」「まちの静けさ(騒音などが気にならない)」「身近で見かける動植物の種類の豊かさ」となっています。

問2

あなたが最近の報道や行政からの情報提供などで見聞きして、特に関心を持つようになった環境問題は何ですか。次の中から3つまで選んでください



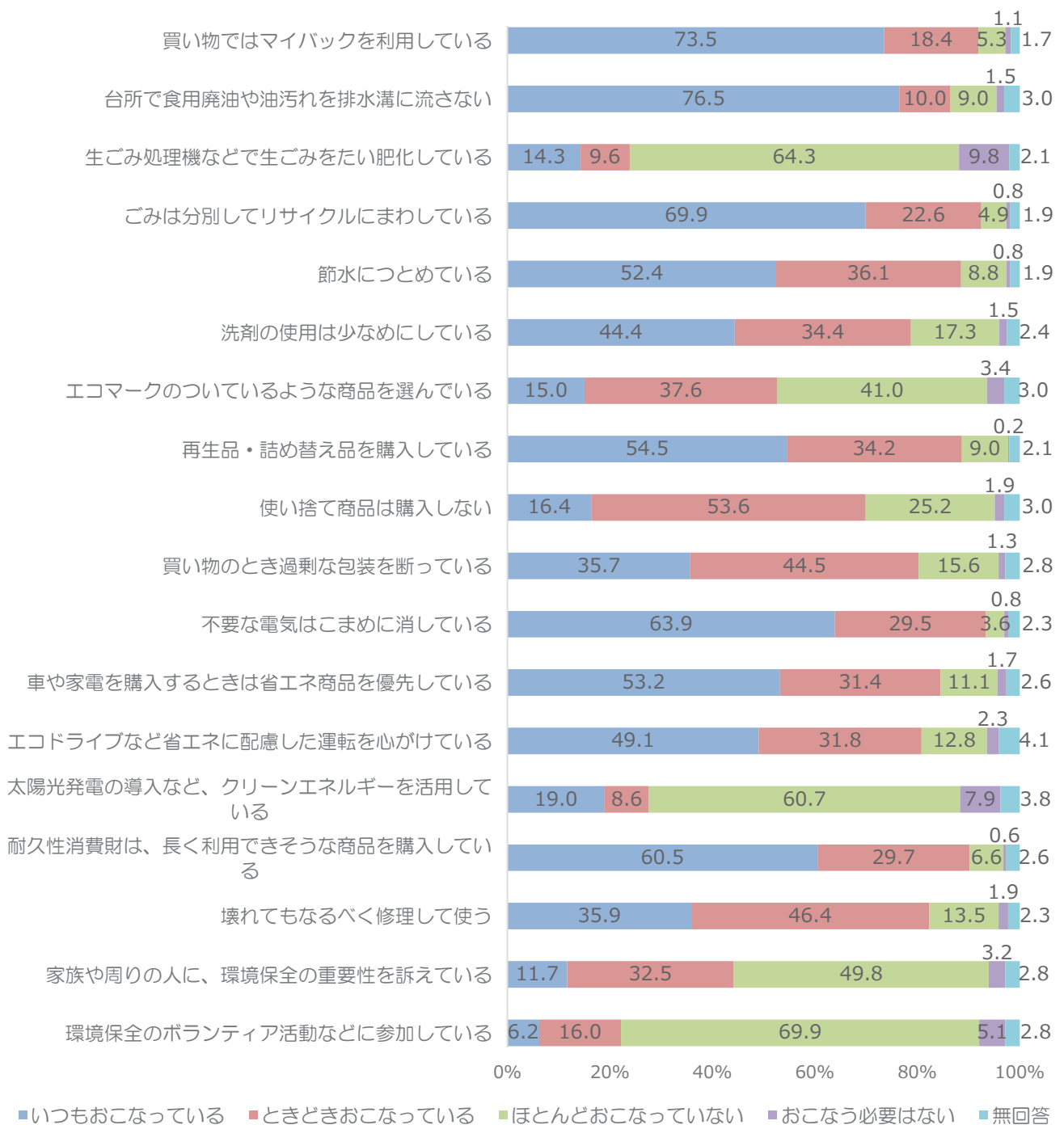
特に関心を持つようになった環境問題については、「地球温暖化」、「黄砂やPM2.5の飛来」、「外来生物による生態系への影響」が上位となっています。

その中でも「地球温暖化」については、532人中429人が選択しており、近年の異常気象や自然災害の頻発などに対する懸念が反映されていると考えられます。

問3

日ごろの生活の中で、環境に配慮した取り組みをおこなっていますか。

1つだけ選んでください。



「いつもおこなっている」の上位項目は「台所で食用廃油や油汚れを排水溝に流さない」「買い物ではマイバックを利用している」「ごみは分別してリサイクルにまわしている」の順となっています。

また、「いつもおこなっている」と「ときどきおこなっている」を合わせた場合の上位項目は「不要な電気はこまめに消している」「ごみは分別してリサイクルにまわしている」「買い物ではマイバックを利用している」の順となっています。

項目	調査年度	積極回答	消極回答
買い物ではマイバックを利用している	H30	91.9	6.4
	H25	83.6	7.3
	H20	90.0	6.4
台所で食用廃油や油汚れを排水溝に流さない	H30	86.5	10.5
	H25	77.0	12.9
	H20	80.6	13.7
生ごみ処理機などで生ごみをたい肥化している	H30	23.9	74.1
	H25	19.9	69.5
	H20	25.9	68.8
ごみは分別してリサイクルにまわしている	H30	92.5	5.6
	H25	85.2	5.3
	H20	91.9	5.2
節水につとめている	H30	88.5	9.6
	H25	84.5	7.5
	H20	87.6	7.3
洗剤の使用は少なめにしている	H30	78.8	18.8
	H25	72.7	18.6
	H20	77.6	17.1
エコマークのついているような商品を選んでいる	H30	52.6	44.4
	H25	54.2	36.3
	H20	58.8	35.3
再生品・詰め替え品を購入している	H30	88.7	9.2
	H25	83.5	7.5
	H20	88.3	6.6
使い捨て商品は購入しない	H30	69.9	27.1
	H25	65.8	22.7
	H20	69.9	23.9
買い物のとき過剰な包装を断っている	H30	80.3	16.9
	H25	74.4	15.7
	H20	75.0	19.9
不要な電気はこまめに消している	H30	93.4	4.3
	H25	87.7	3.4
	H20	90.4	5.3
車や家電を購入するときは省エネ商品を優先している	H30	84.6	12.8
	H25	80.1	9.7
	H20	81.4	13.1
エコドライブなど省エネに配慮した運転を心がけている	H30	80.8	15.0
	H25	72.7	18.6
	H20	77.6	17.1
太陽光発電の導入など、クリーンエネルギーを活用している	H30	27.6	68.6
	H25	18.1	70.0
	H20	—	—
耐久性消費財は、長く利用できそうな商品を購入している	H30	90.2	7.1
	H25	76.7	12.4
	H20	86.1	8.5
壊れてもなるべく修理して使う	H30	82.3	15.4
	H25	76.7	13.5
	H20	82.6	12.4
家族や周りの人に、環境保全の重要性を訴えている	H30	44.2	53.0
	H25	42.9	47.2
	H20	53.9	40.3
環境保全のボランティア活動などに参加している	H30	22.2	75.0
	H25	16.2	74.4
	H20	18.8	75.3

※1 積極回答は、「いつもおこなっている」+「ときどきおこなっている」の合計

※2 消極回答は、「ほとんどおこなっていない」+「おこなう必要はない」の合計

※3 今回結果の文字色
取り組みの結果、前回より良くなった場合は「赤色」
取り組みの結果が下がった場合は「青色」

※4 項目が「塗りつぶしみどり色」は、取り組みの積極的が増え、消極的が下がっている

※5 項目が「塗りつぶしオレンジ色」は、取り組みの積極的が減り、消極的も増えている

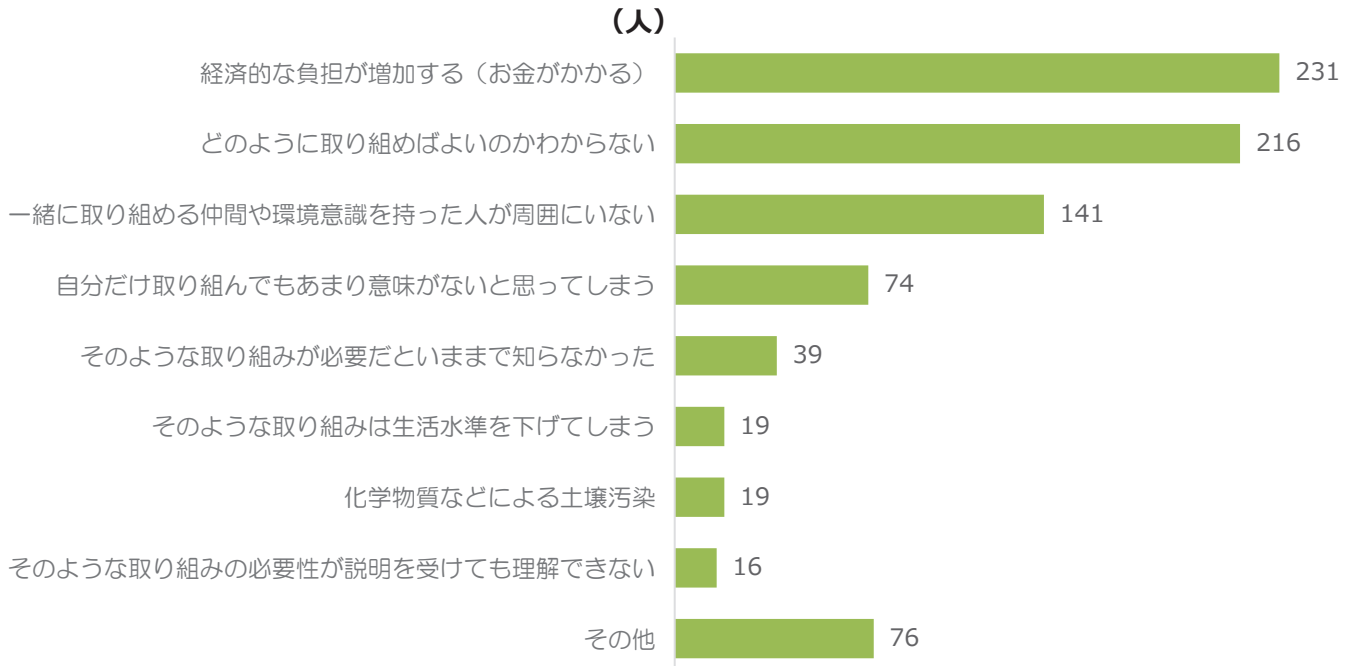
※6 項目が「塗りつぶしなし」は、取り組みの積極的は増えているが、消極的も増えている

環境に配慮し、具体的に取り組んでいる項目はこの10年間で大きな変化は見られません。

「マイバックの利用」「長寿命製品の購入」「食用廃油を排水口へ流さない」「エコドライブ」などが、取り組み項目として浸透が進んでいます。一方、「環境ボランティア活動への参加」「エコマーク商品の選択は」あまり浸透していない状況です。「節電」「ごみの分別・リサイクル」「再生品・詰め替え品の購入」「節水」は定常化しているといえます。

問4

問3で「ほとんどおこなっていない」または「おこなう必要はない」と回答した方は、取り組みの妨げになっている理由は何ですか。主な理由を3つまで選んでください。



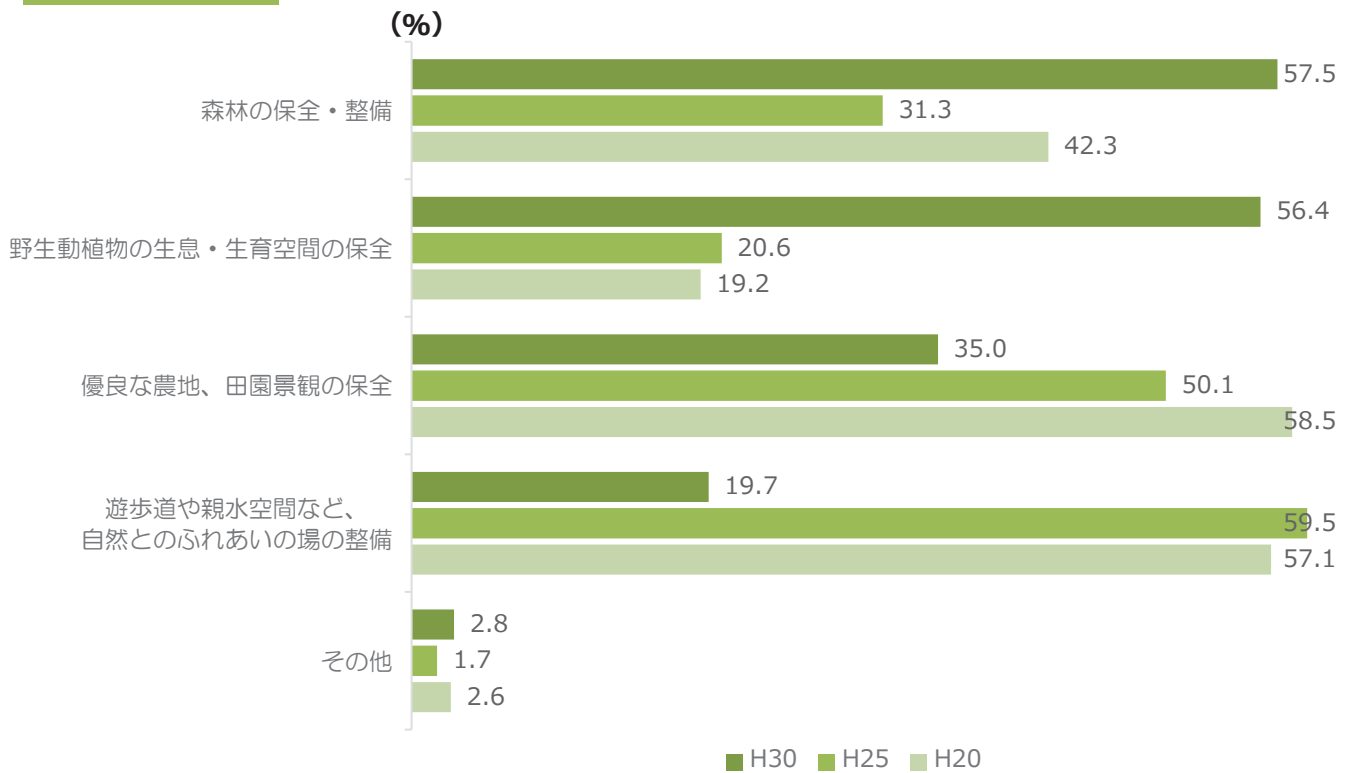
環境に配慮すべきであるが、取り組むことができない理由として、経済的な問題(費用の問題)、どのように取り組めば良いかわからない、一緒に取り組める仲間がいない等が上位項目となっています。



問5

環境を守り、より良くしていくために、今後、中央市はどのような施策を重点的に進めていくべきだと思いますか。4つの分野ごと、特に重要と思うものを、お答えください。

【自然環境分野】 (2つまで回答可)

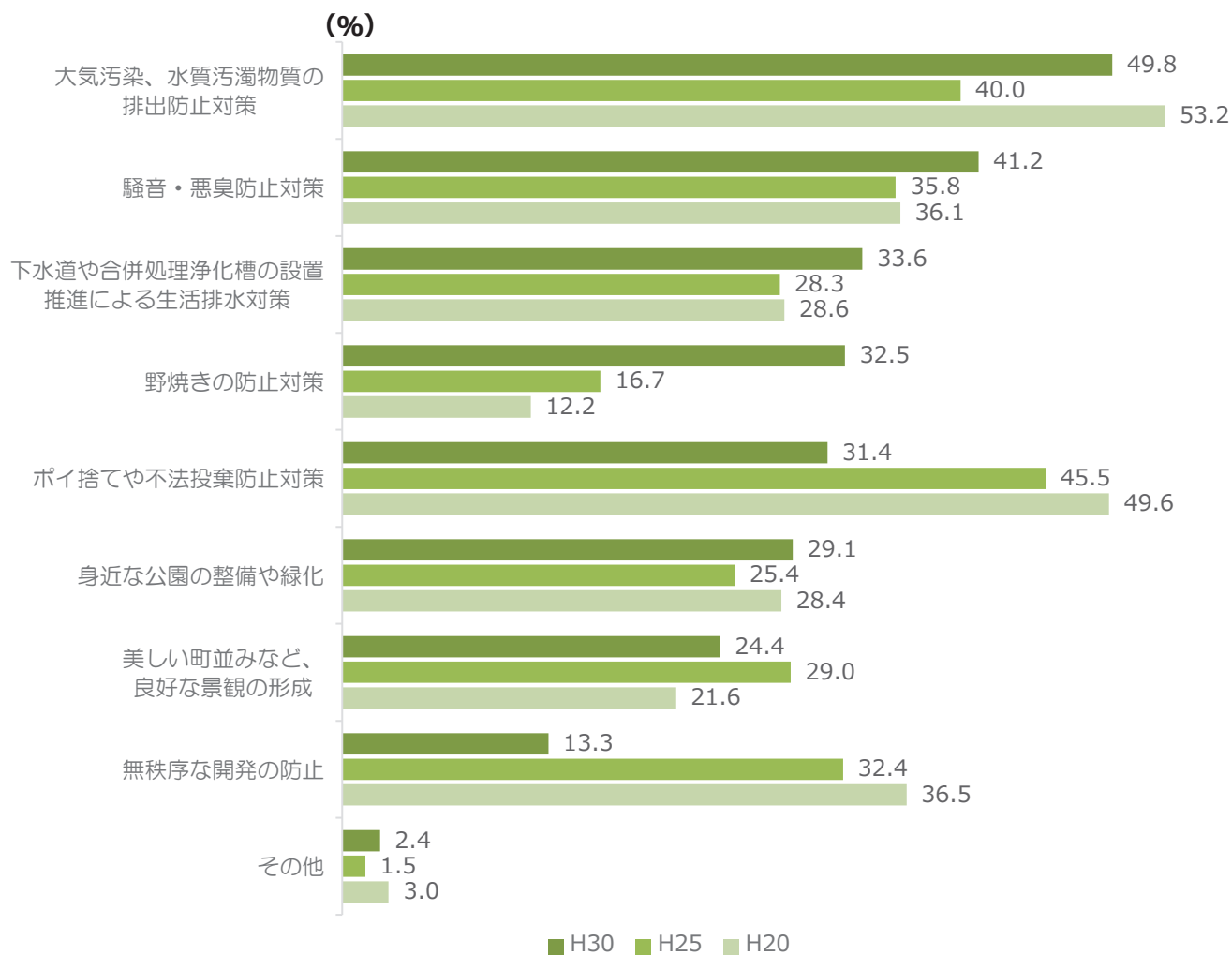


過去3回の市民アンケート結果の推移を上記のグラフに示しました。

前2回の調査結果と比べ、「森林の保全整備」、「野生動植物の生息・生息空間の保全」に関心を示す市民が2倍近く増加しています。この要因としては近年の異常気象に伴う自然災害の増加、生物多様性問題に関する報道等によるものと思われます。

【生活・都市環境分野】

(3つまで回答可)

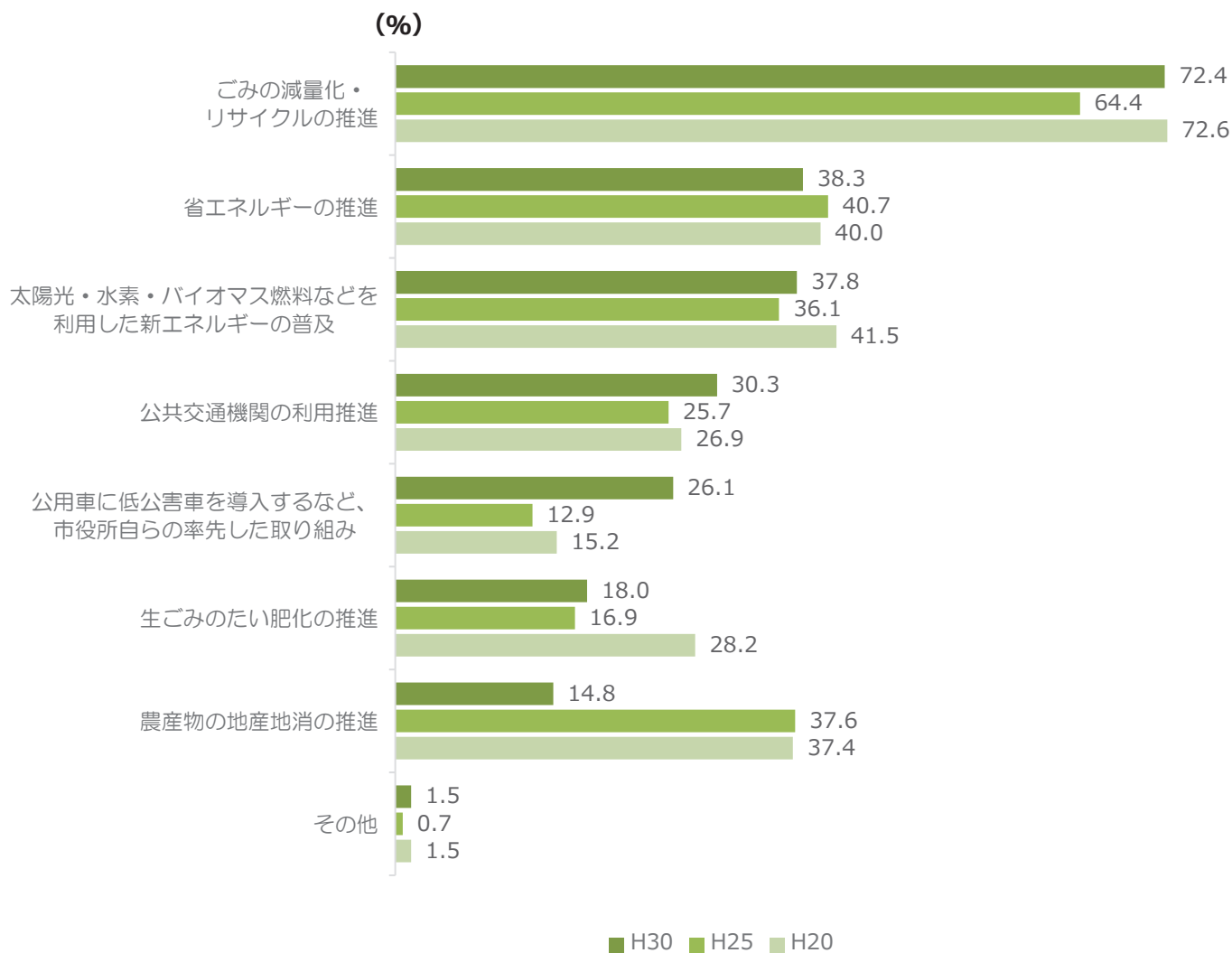


今回「野焼きの防止対策」が突出して増加しています。

また、「大気汚染、水質汚濁物質の排出防止対策」「騒音・悪臭防止対策」「下水道や合併浄化槽の設置」「身近な公園の整備や緑化」も増加しています。

【地球環境分野】

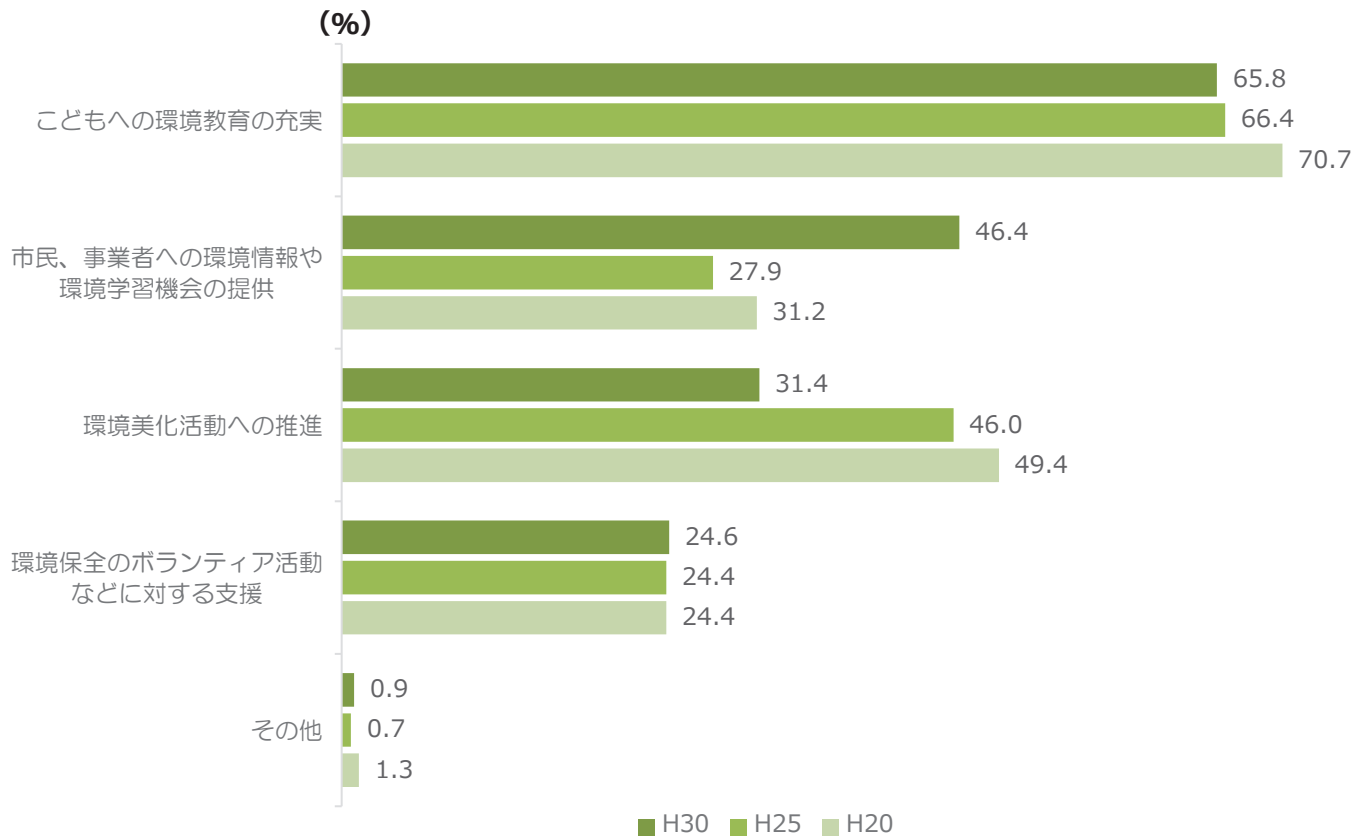
(3つまで回答可)



地球環境問題について市に期待する施策については、過去の調査と大きな差異はありませんでした。その中で、公用車の導入にあたっては低公害車を導入するなど、市自らが率先して地球温暖化防止に取り組んでもらいたいという意見が増加していました。

【環境教育分野】

(2つまで回答可)

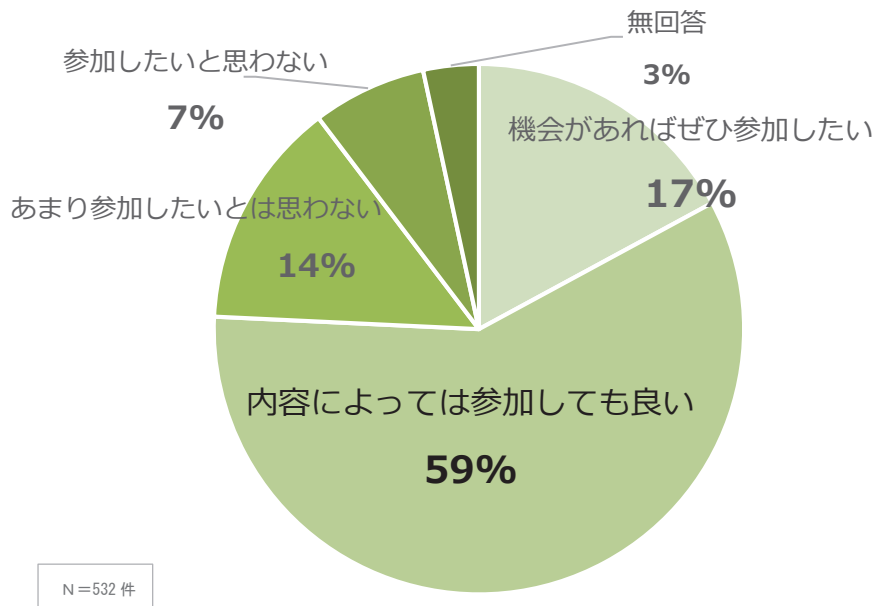


市に期待する環境教育に関する施策についても、過去2回の調査結果と大きな変化はありませんが、事業者・市民への環境情報の提供について、多くの市民が期待をしています。



問 6

地域や市がおこなう環境保全のための取り組みに参加したいと思いますか。(1つ回答)

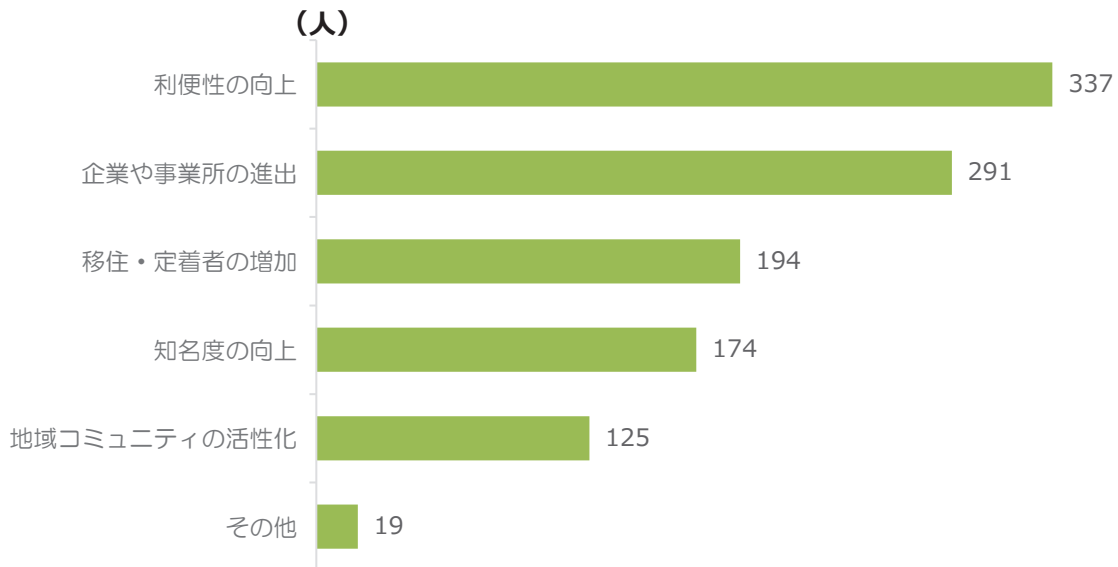
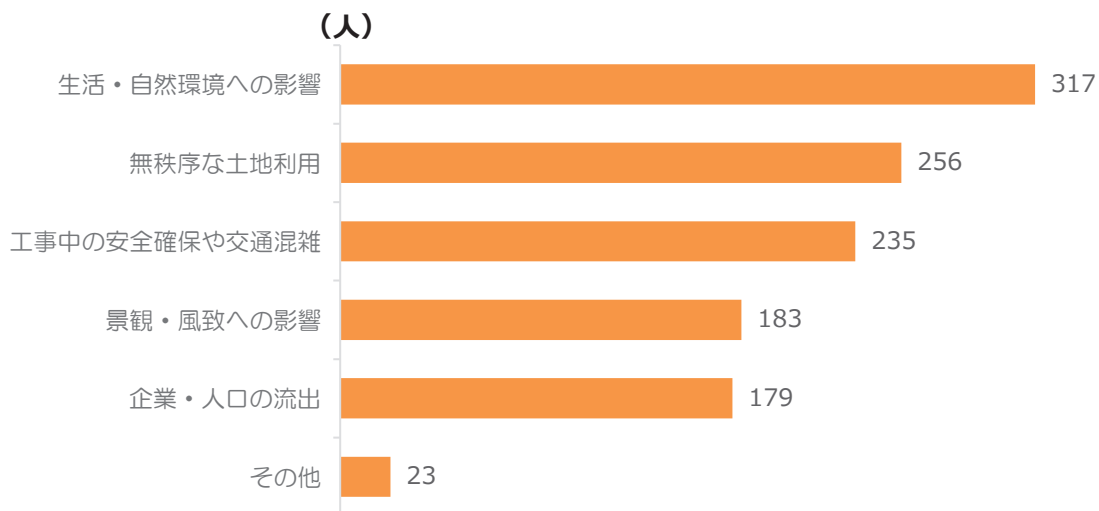


市が実施する環境保全活動への参加について、機会があれば参加したい、内容によっては参加したいと考える市民が76%存在し、市民の環境保全に対する意識は非常に高いといえます。



問7

2027年開業予定の「リニア中央新幹線」について、「期待すること」と「気になること」は何ですか。それぞれ3つまで選んでください。

【期待すること】 (3つまで回答可)

【気になること】 (3つまで回答可)


リニア中央新幹線の開業による効果として、多くの市民は利便性の向上や地域経済への効果を期待しています。一方、工事に伴う環境影響や生活・自然環境への影響について関心を寄せています。

問 8

ご意見、ご要望について

No	地 区 名	ご意見・ご要望の概要
1	田富地区	<ul style="list-style-type: none"> ① 休耕地、空き地の有効利用、耕作放棄地対策をして欲しい。 ② 常永川にごみが多い、農用水路にごみが多い。 ③ ごみのポイ捨てが散見される。 ④ 道路の雑草が目立つ。 ⑤ 夜中のバイク騒音、道路騒音。 ⑥ 下水道の普及により農業用水路はきれいになったが、水量低下で悪臭も発生。 ⑦ 地域に公園や緑化が少ない、公園の整備をして欲しい。 ⑧ ごみ出しのルールを指導・周知して欲しい。 ⑨ リニアの環境への影響が心配。 ⑩ 交通渋滞の解消、道路の整備。
2	玉穂地区	<ul style="list-style-type: none"> ① 県外から来たが電車の本数が少ない以外は、良いまちです。 ② 玉穂は常に美しく整備されていて素晴らしいと思う。 ③ 豊かな自然の中央市が好き、玉穂の開発も大事ですが、自然も大切にしたい。 ④ 公園の数が増えてありがたい。手入れも必要。 ⑤ 道路の雑草をとり景観を保護すべき。空き地の雑草が放置されている。 ⑥ 河川、水路にごみがたまっている。ポイ捨ても目立つ。 ⑦ 農業をもっと支援すべき。 ⑧ ごみ出しのマナーが守られていない。 ⑨ いまだに家庭ごみを燃やしている家がある。 ⑩ 甲斐市には花が咲いている場所が多くある、中央市も考えて欲しい。
3	豊富地区	<ul style="list-style-type: none"> ① 休耕地、耕作放棄地対策をして欲しい。 ② 道路、空き地の雑草対策。 ③ 前回もアンケートがあり改善要望を提出したが、対応が不明。雑木林、ごみの不法投棄等の対策をして欲しい。 ④ ごみ出しルールが徹底されていない。 ⑤ 粗大ごみ、燃えないごみの回収場所の増設。

4	<p>県人会 (県外在住者)</p>	<p>県人会(県外在住者)12人に本アンケート調査を依頼したところ、9人(75%)の方から回答を頂きました。回答の概要は以下の通りです。</p> <p>①中央市が取り組むべき環境施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良な農地と景観の保全、自然とのふれあいの整備、大気・水質汚濁物質の排出対策、ごみの減量化・リサイクルの推進、省エネルギーの推進、子供への環境教育の推進があげられていました。特に、ごみの減量化・リサイクルの推進、子供への環境教育の推進は、全ての方が重要施策として挙げていました。 <p>②リニア中央新幹線について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待することとして「利便性の向上」、「移住・定住の増加」を挙げています。一方、気になることとして「生活・自然環境への影響」、「無秩序な土地利用」等を挙げていました。 <p>また、回答を頂いた9人中、3人の方から要望を頂きました。</p> <p>その内容は、「住みよいまちづくりに市民が参加できる施策を基本計画に盛り込んで欲しい」、「中央市を離れて20年以上になるが、ほっと落ち着く田舎の風景を今後も守ってもらいたい」、「子供が安心して遊べる場所の拡大、温暖化対策としての緑の拡大、洪水・浸水対策、ごみの減量化、電力の地産・地消」等、ふる里を大切に思う意見が寄せられています。</p>
	<p>全体総括</p>	<p>玉穂地区では、県外からの移住者の方から中央市の環境全般について称賛の意見が複数ありました。</p> <p>一方、3地区に共通する本市の課題として、道路、空き地、耕作放棄地等の雑草問題、景観問題があげられており、特に農業振興の観点から「耕作放棄地対策」を推進して欲しいとの要望が多く指摘されています。</p> <p>また、ごみ問題として、ごみ出しルール理解不足、不徹底、家庭ごみの焼却のクレーム対応、ごみのポイ捨て問題等が複数提起されています。</p> <p>その他として、バイク、自動車騒音が田富地区で、道路、公園は整備されつつあり評価できるが、田富、玉穂の2地区では今後も整備を期待するとのご意見をいただきました。</p>

第2節 事業者アンケート結果

2-1 調査方法

(1)調査の目的

中央市の環境保全に対する事業者の意識と、日常の行動状況及び事業者の市の環境保全施策に関する意見、要望等を把握するとともに、今後の課題を明らかにし、新たに策定する「第2次中央市環境基本計画」に、本調査結果を反映させることを目的として実施しました。

(2)調査対象

①調査地域等

項目	対象
①調査地域	中央市全域（田富地区、玉穂地区、豊富地区）
②調査対象	市内事業者
③調査対象数	200事業所

②調査対象

図表4-3 事業者アンケートの配付状況と回収状況

区分	配付件数	配付比率	回収件数	回収比率
農林水産業	4	2.0%	3	75.0%
建設業	8	4.0%	6	75.0%
製造業	35	17.5%	29	82.9%
電気ガス供給・水道業	5	2.5%	2	40.0%
情報通信業	4	2.0%	4	100.0%
運輸業	23	11.5%	13	56.5%
卸・小売業	57	28.5%	30	52.6%
金融・保険業	4	2.0%	3	75.0%
不動産業	1	0.5%	1	100.0%
飲食店・宿泊業	10	5.0%	3	30.0%
医療・福祉	5	2.5%	3	60.0%
洗濯・理容・美容・娯楽業	5	2.5%	2	40.0%
郵便局サービス業	4	2.0%	2	50.0%
廃棄物処理・自動車整備	20	10.0%	12	60.0%
その他	15	7.5%	3	20.0%
合計	200件	100.0%	116件	58.0%

(3) 調査項目

No	調査内容
1	事業者の属性（業種、形態、所在地区、従業員数など）
2	本市の環境全般について
3	地球環境問題について
4	リニア中央新幹線について
5	自由意見（中央市の環境行政全般についてのご意見・要望などについて）

(4) 調査期間 平成 30 年 8 月 1 日(水) ～ 9 月 14 日(金)まで

(5) 調査方法 郵送によるアンケート調査

(6) アンケートの配付方法及び回収率

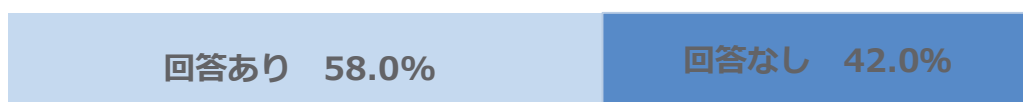
①事業者のアンケート対象について

- ・事業者へのアンケート送付総数は 200 件、うち回答件数は 116 件、回答率は 58%で市民アンケートの回収率(53.2%)とほぼ同程度の数値でした。
- ・今回のアンケートの実施にあたり、市内に存在する事業所のうち従業員数の多い順にて 200 社を抽出しました。その業種別の抽出率、配付件数、回収件数等は図表 4-3 の通りです。
- ・アンケート送付件数の最も多かった業種は、卸・小売業の 57 件、次いで製造業の 35 件、運輸業 23 件で、この 3 業種で全体の 57%となっています。

②業種別回答率の差異について

- ・回答件数が最も多かったのは、卸・小売業及び製造業で、この 2 業種で約 50%となっていました。
この 2 業種は配付件数が多いことから、回収件数が多かったのは当然であります。特に、製造業の回収率は約 82.9%と非常に高く、近年の本業界に対する社会的な要求もあり、環境保全に対する関心の高さがうかがえる傾向を示していました。

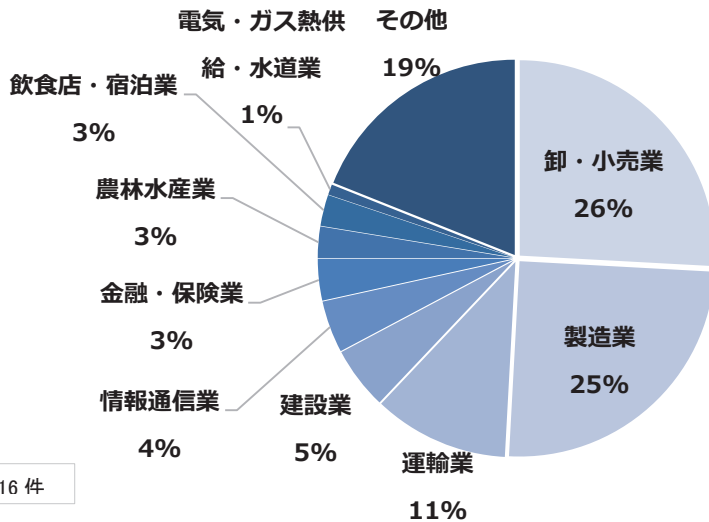
◆事業者アンケート回収結果 《回収件数 116 社 / 送付件数 200 社》



2-2 調査結果

1. 事業者の基本情報

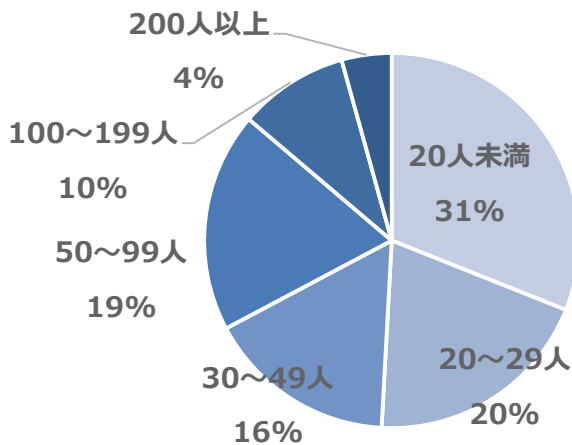
- 【1】 貴事業所の業種は、次のうちどれですか。あてはまる番号 1 つを選んで○印を付けてください。（複数の業種を展開している場合は、主なものを 1 つお選びください。）



回答比率の最も高かった業種は、卸・小売業者（26%）であり、次いで製造業（25%）、運輸業（11%）の順となっています。

N=116 件

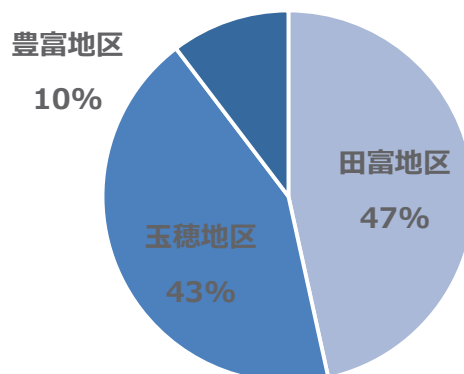
- 【2】 貴事業所の従業員の数は、次のうちどれですか。あてはまる番号 1 つを選んで○印を付けてください。※従業員数は、このアンケート票の送付先にある敷地内の事業所を対象とし、パート、アルバイト等すべての従業員を含んだ数としてください。



回答をいただいた組織の人員規模は、20人未満が31%、20～29人未満が20%で、両区分で全体の約半数となっています。また100人以上の組織も14%となっています。

N=116 件

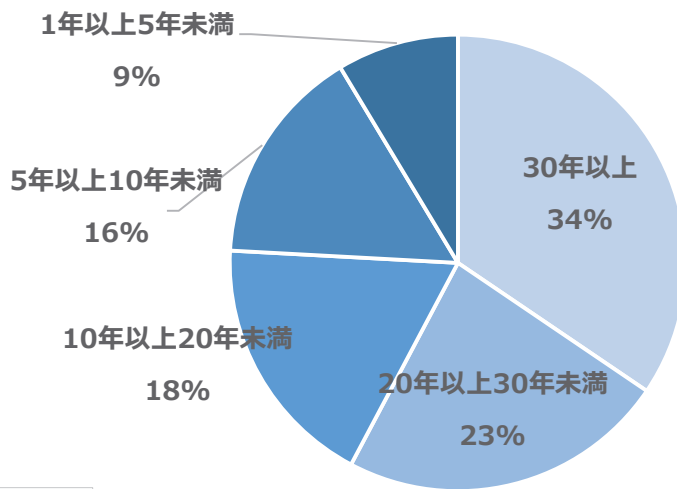
- 【3】 貴事業所の主な所在地は次のうちどれですか。あてはまる番号 1 つを選んで○印を付けてください。



回答をいただいた組織の地区別比率は、田富地区が47%、玉穂地区が43%、豊富地区が10%となっています。

N=116 件

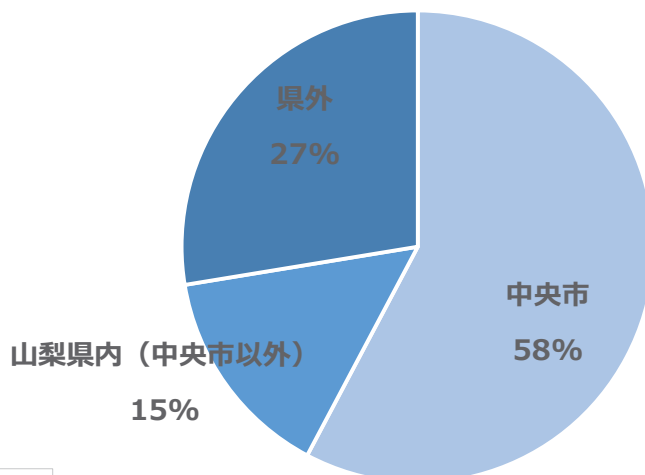
【4】 貴事業所の中央市における在所(事業)年数は何年ですか。あてはまる番号 1 つを選んで○印を付けてください。



中央市における事業継続年数は、20年以上が約60%となっています。一方、創業から5年未満の組織の比率は9%となっていました。

N = 116 件

【5】 貴事業所の本社としての機能はどこにありますか。あてはまる番号 1 つを選んで○印を付けてください。

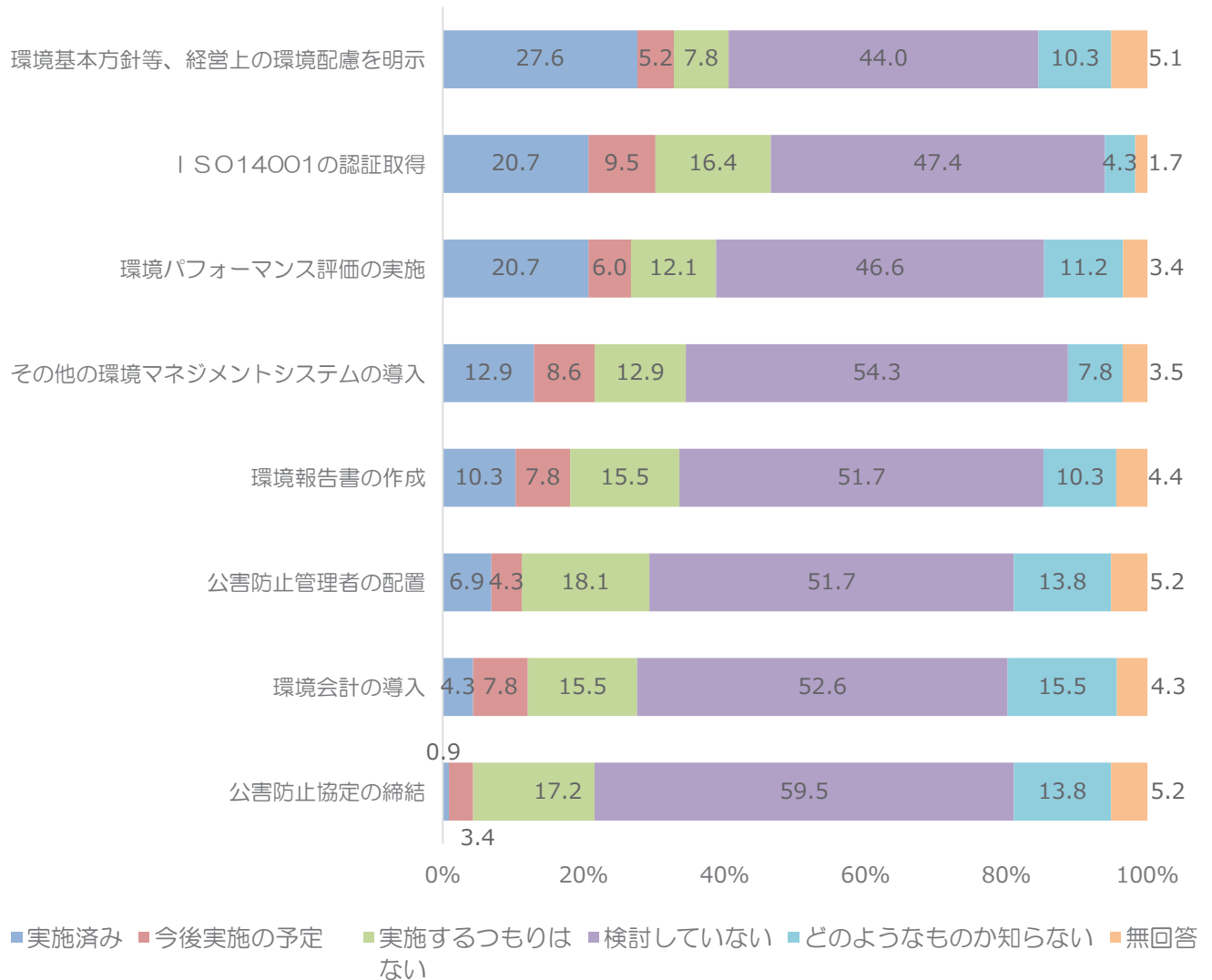


本社所在地は、本市内が58%、県内が15%で山梨県内の地元組織が73%と高い比率になっていました。

N = 116 件

2. 環境配慮活動について

問1 貴事業所では、環境に配慮した経営手法を用いていますか。次のすべての項目について、あてはまるものを1つ選び、その番号に○印を付けてください。

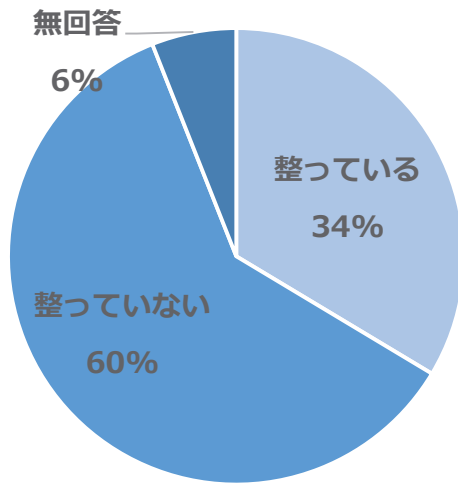


環境方針等を掲げ環境に配慮した経営を行っている組織が約30%存在します。

また、近年のエネルギーコストの上昇は、企業経営に大きく影響することから、環境パフォーマンスの評価を行っている組織も約20%存在しています。

問 2

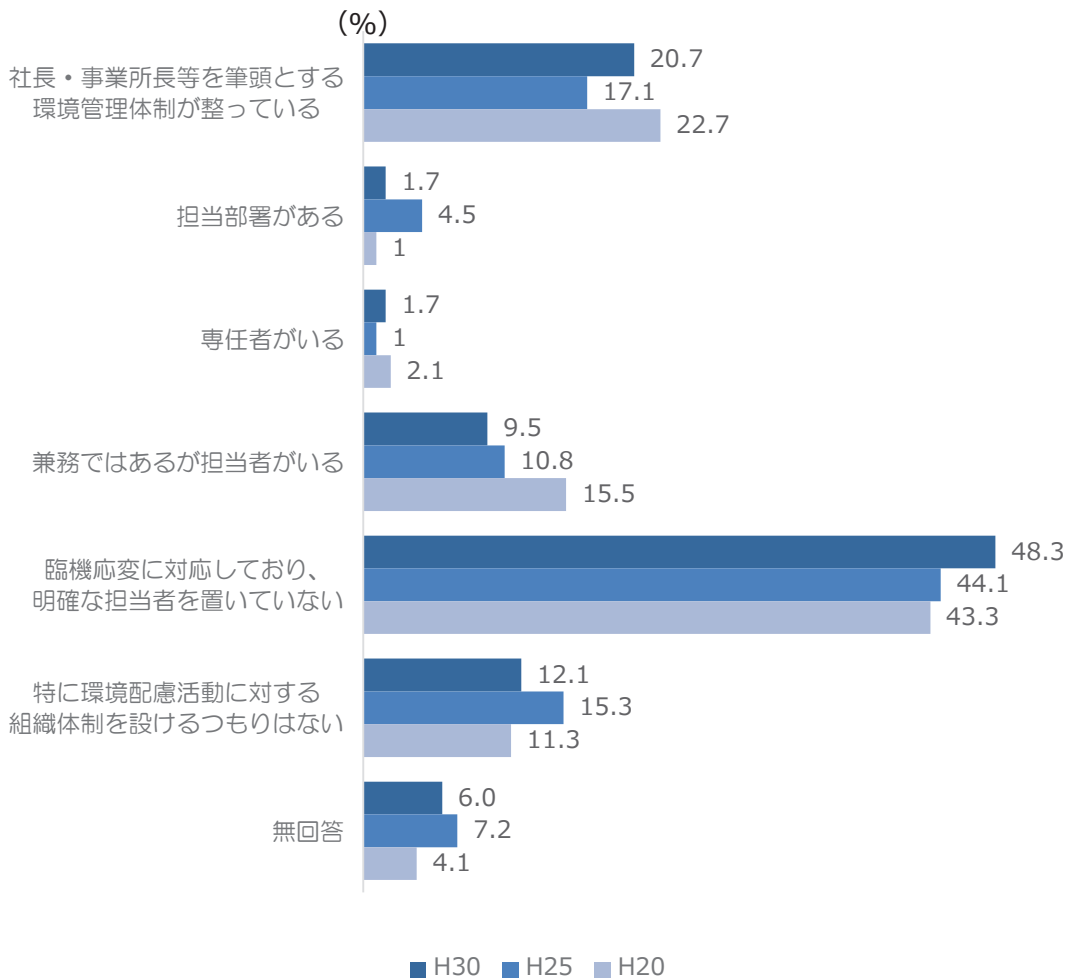
貴事業所の環境配慮活動に関わる組織体制として、次の中からあてはまるものを1つ選び、番号に○印を付けてください。



N = 116 件

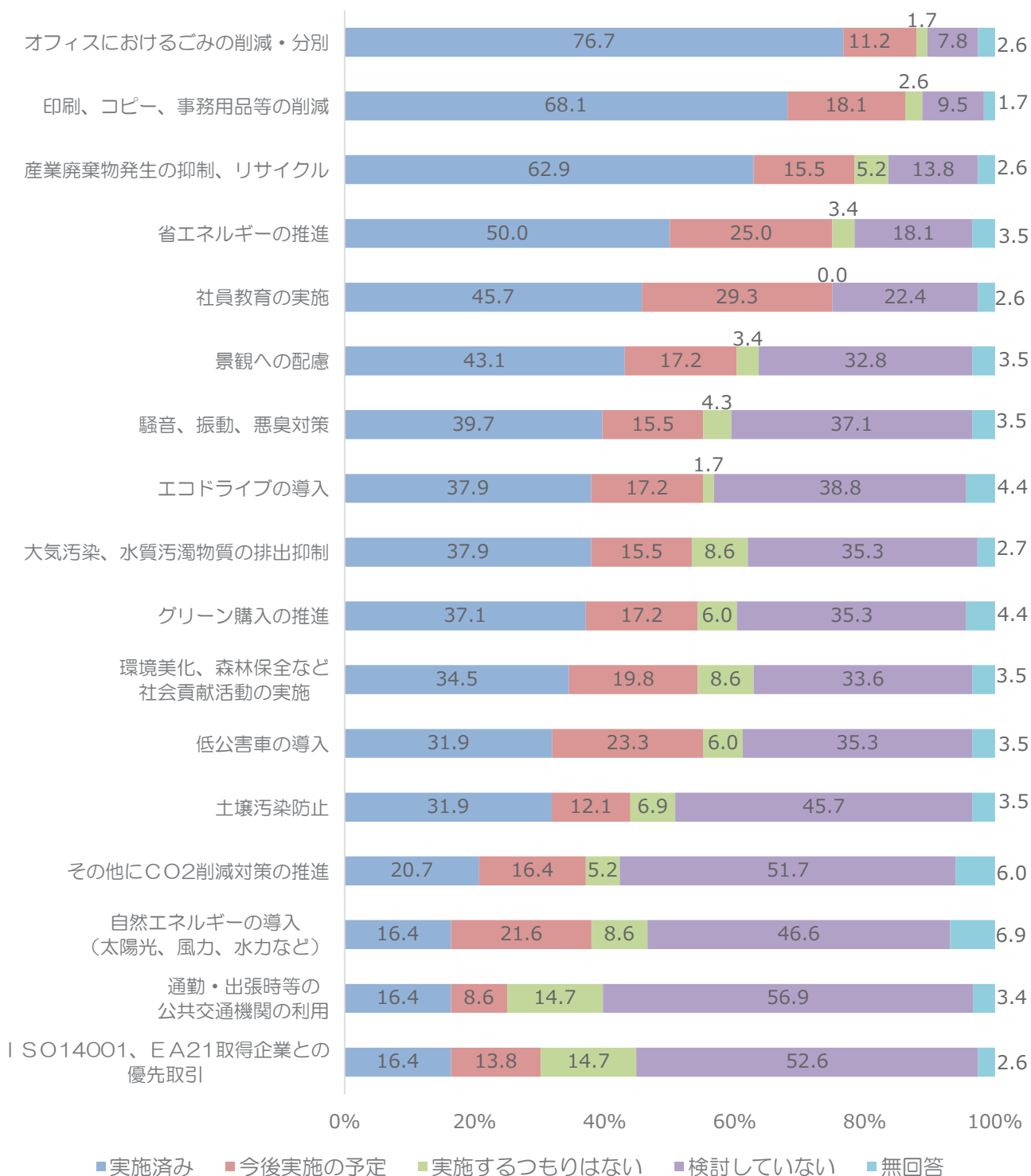
環境管理体制の構築については、約30%の組織が整っているとの回答を得ましたが、過去10年間に於いてほとんど変化は見られません。

《過去2回との調査比較》



問3

貴事業所では、環境保全のためにどのような取り組みをしていますか。次のすべての項目について、該当する番号を1つ選び、その番号に○印を付けてください。

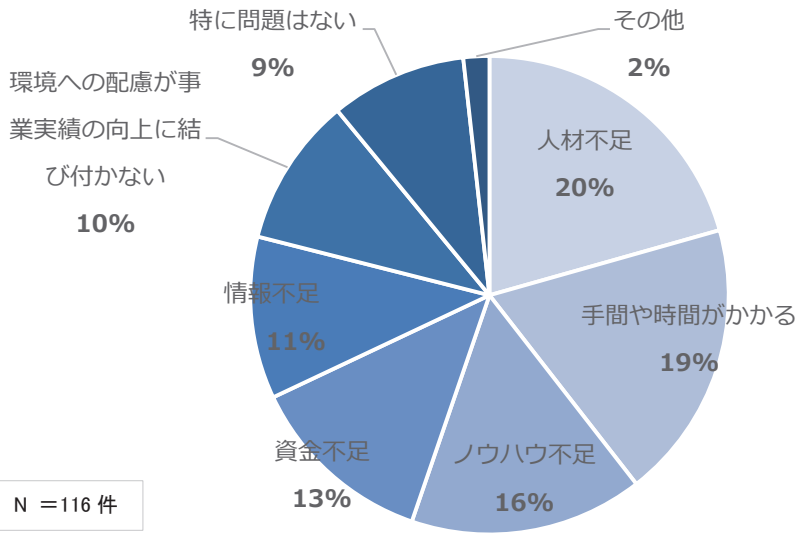


◆環境保全活動への取り組み

組織の環境保全活動への取り組みの上位項目は「オフィスにおけるごみの分別・削減」、「事務用消耗品費の削減」、「産業廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進」、「省エネの推進」があげられています。その他、「社員教育の実施」、「環境美化、森林保全等社会貢献活動の実施」にも半数以上の組織が取り組まなければならないと考えています。

問 4

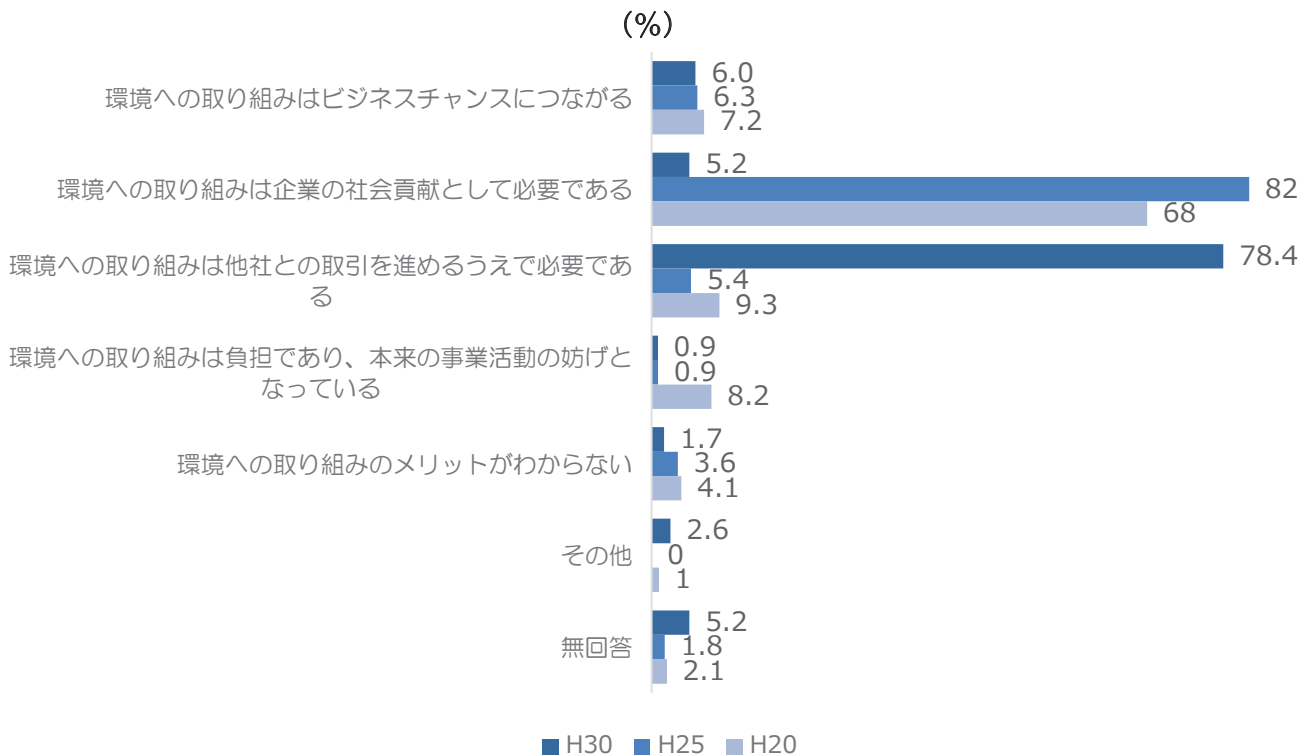
貴事業所がおこなっている（またはおこなう予定）環境保全活動について、課題や困難な点はどんなことですか。次の中から該当するものを選び、番号に○印を付けてください。（複数回答可）



環境保全活動を行うにあたっての課題として「人材不足」「手間がかかる」「ノウハウ・知識不足」「資金不足」「情報不足」等がほぼ同比率で挙げられています。

問 5

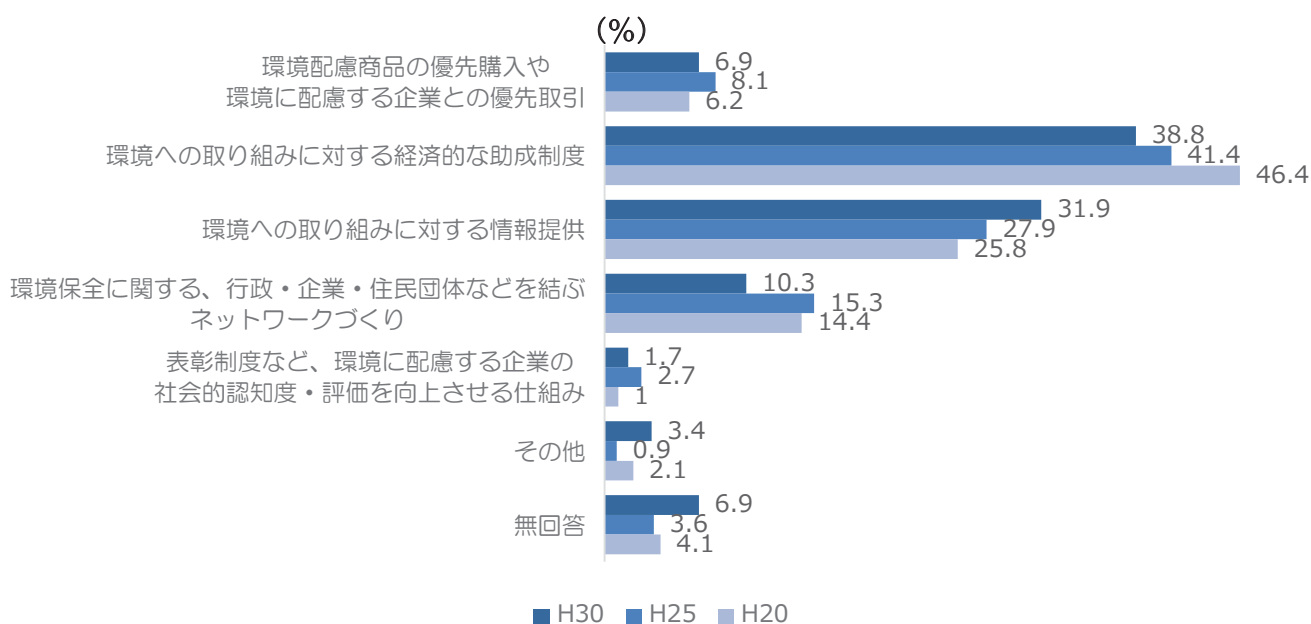
貴事業所では、企業の環境への取り組みと企業活動にあり方についてどう思われますか。貴事業所の考えに最も近いものを1つ選び、番号に○印を付けてください。



この質問項目については、過去の調査結果より大きな変動がみられます。今後の企業活動の在り方として「環境への取り組みが他社との取引を進めるために必要」とする回答が前回の調査以降、約 10 倍以上に増加し、約 8 割の企業が環境保全活動への取り組みの必要性を認識しています。

問6

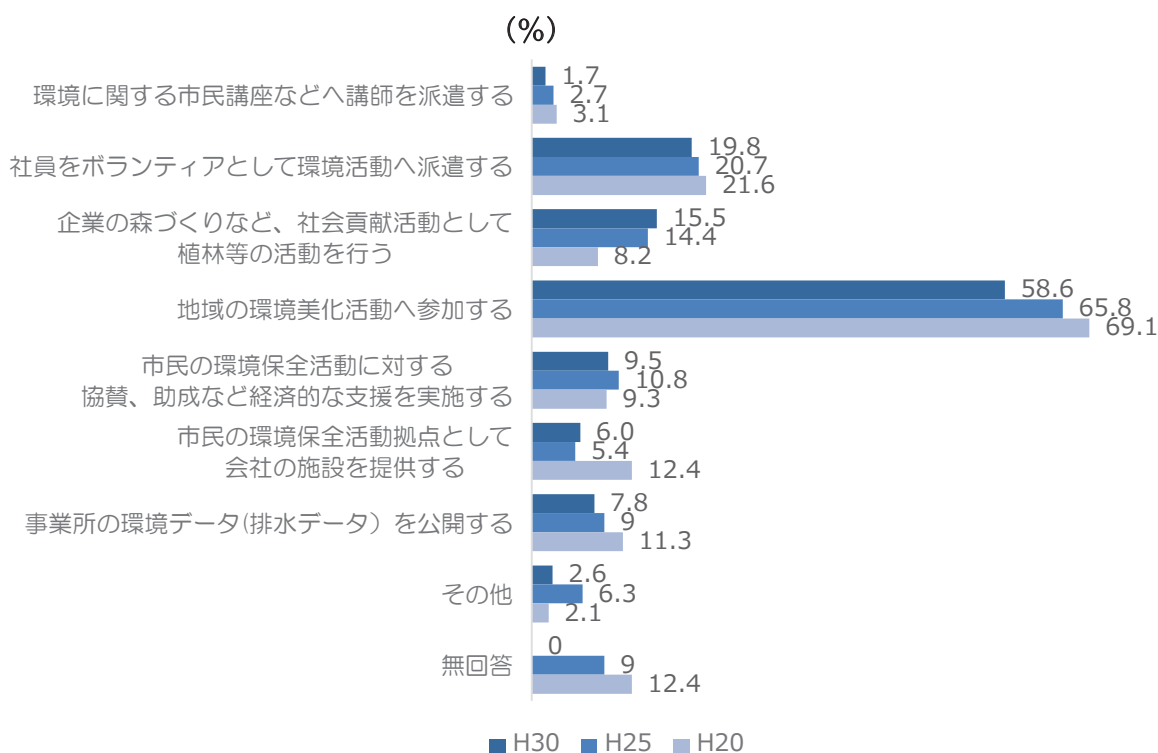
企業の環境保全活動を活発にするために、中央市に期待することはありますか。次の中から最も期待することを1つ選び、番号に○印を付けてください。



過去の調査からほとんど変化はありませんが、「環境の取り組みに対する情報の提供」についての期待度が増加傾向にあります。

問7

次の中で、貴事業所として市民や市に対して協力できることがありますか。可能と思われるものを選んで、番号に○印を付けてください。(回答は複数可)

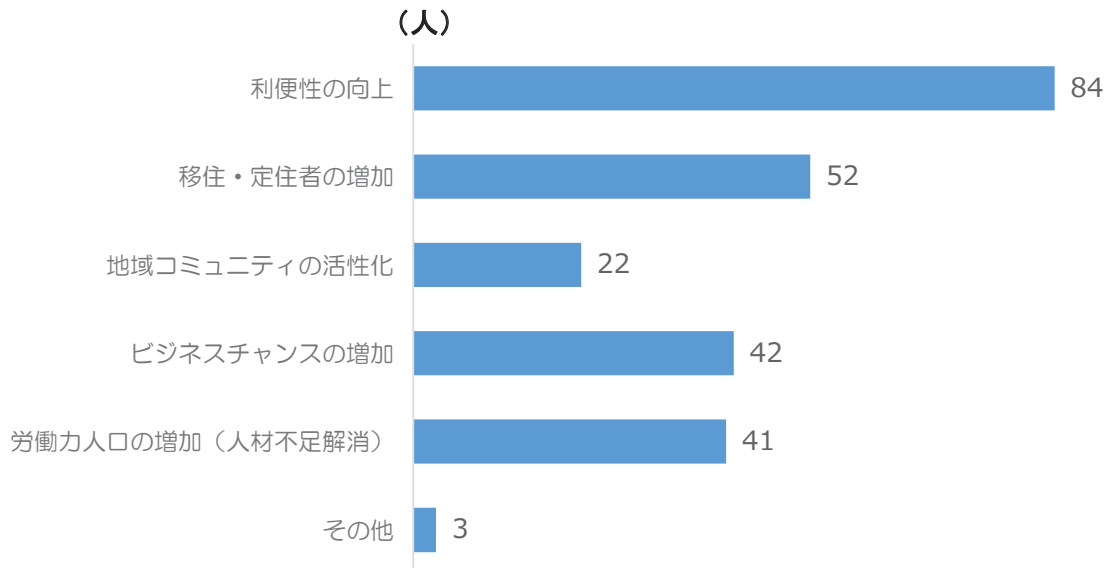


過去3回の調査において、事業者が市に協力できると考える取り組み事項に変化は見られませんでした。他の質問項目においても企業の社会的責任として「地域の環境美化活動への参加」を挙げています。

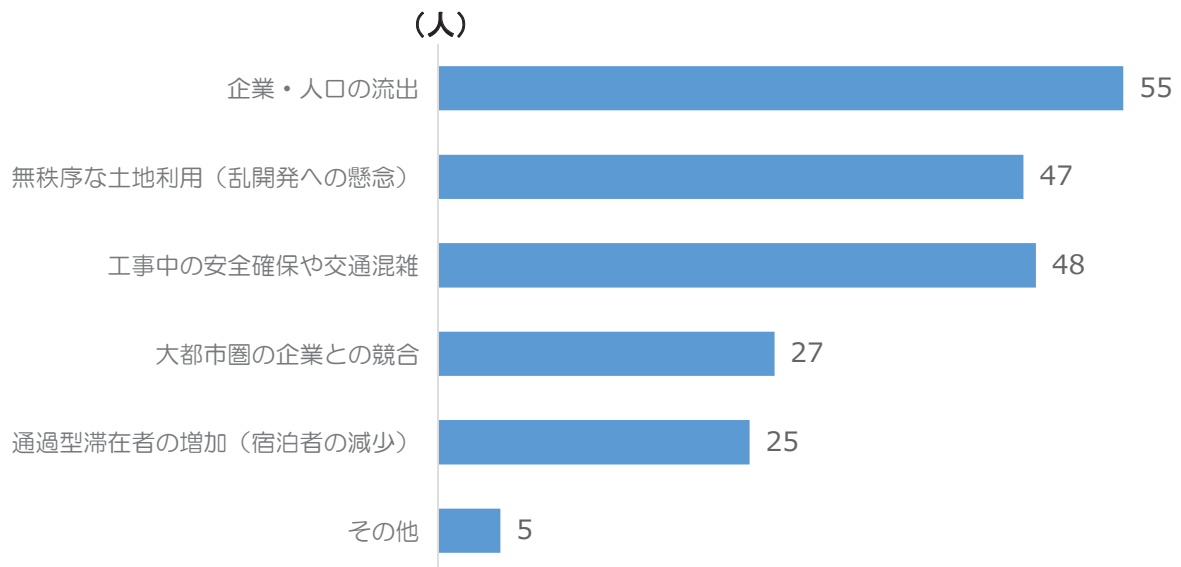
問 8

2027年開業予定の「リニア中央新幹線」について、「期待すること」と「気になること」は何ですか。それぞれ3つまで選んで○印を付けてください。

《期待すること》 (回答は3つまで)



《気になること》 (回答は3つまで)



◆リニア中央新幹線について

リニア開業によるメリットについては、市民と同じく利便性の向上を取り上げています。
 デメリットについては、市民の意見とは異なり「企業・人口の流出」を懸念する組織が約半数存在しています。

問9

中央市の環境について、身近なところでお気づきの点や、市に対するご意見・ご要望などがございましたら、ご記入ください。

- 森づくりや植栽活動等、市での取り組みがあれば、企業に情報を提供して頂きたい。
(市民、児童・生徒と同様)
- 道路に面したところに花が少なく感じる、甲斐市在住で花植等のボランティアを行っているが、このような活動をより積極的に進めてはどうか
- 地球温暖化対策への取り組み、再生可能エネルギーの普及のための補助制度、優遇税制等の検討
- 河川に多くゴミが流れている、モラルの向上、道路の改善(渋滞、凹凸)、防災放送等が聞こえづらい改善が必要(市民と同様)



第3節 児童・生徒アンケート結果

3-1 調査方法

(1) 調査の目的

中央市の自然環境及び生活環境について、児童・生徒がどのように感じ、どのようにしていくべきと考えているか、また、どのような環境問題に関心を持っているのか等を把握し、本調査の結果を「第2次中央市環境基本計画」へ反映させることを目的として実施しました。

(2) 調査対象

項目	対象
調査地域	中央市全域（田富地区、玉穂地区、豊富地区）
調査対象校	田富地区：田富小学校、田富北小学校、田富南小学校、田富中学校 玉穂地区：三村小学校、玉穂南小学校、玉穂南小下河東分校、玉穂中学校 豊富地区：豊富小学校
調査対象学年	小学5年生、中学2年生の男女
調査対象者数	574人（小学生295人、中学生279人）

(3) 調査項目

No	調査内容
1	回答者の基本情報（性別、学年、住居地区）
2	本市の環境全般について
3	地球環境問題等について
4	リニア中央新幹線について
5	自由意見（ご意見・ご要望などについて）

(4) 調査期間 平成30年8月1日(水)～9月14日(金)まで

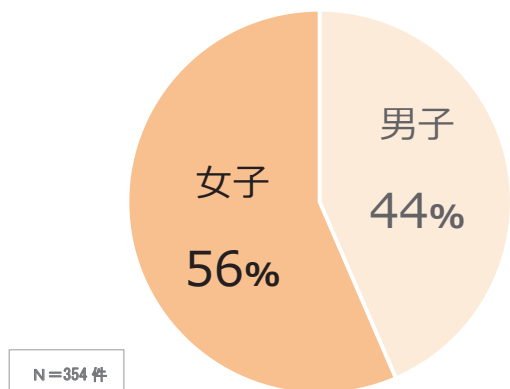
(5) 調査方法 各学校にて児童・生徒に配付、郵送によりアンケート回収

(6) アンケートの回収率 61.7%（回収件数 354人）

3-2 調査結果

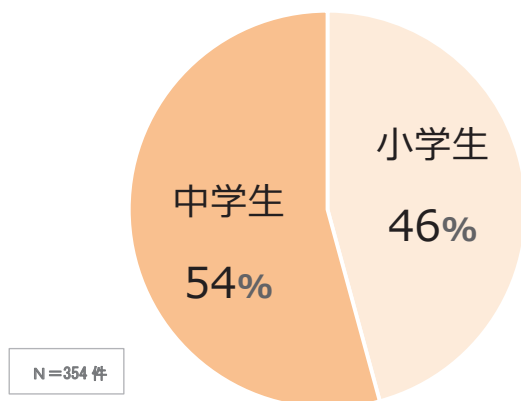
(1) 回答者の基本情報

【1】 あなたの性別は？



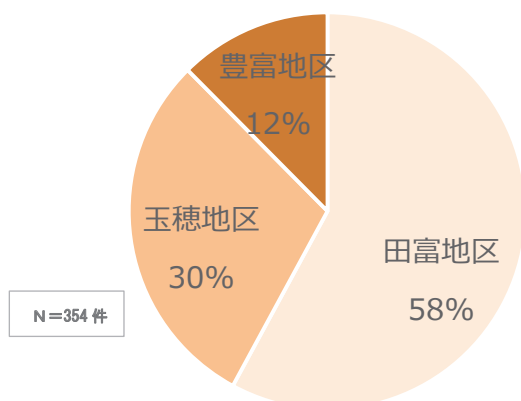
回答の児童・生徒の男女比率は、男子44%、女子56%となっており、回答率は女子が12ポイント程高くなっています。

【2】 あなたは小学生それとも中学生？



調査対象は小学5年生と中学2年生としました。回収率は中学生の割合がやや高くなっています。(配付比率は、中学生対小学生は1対1.05でほぼ同比率)

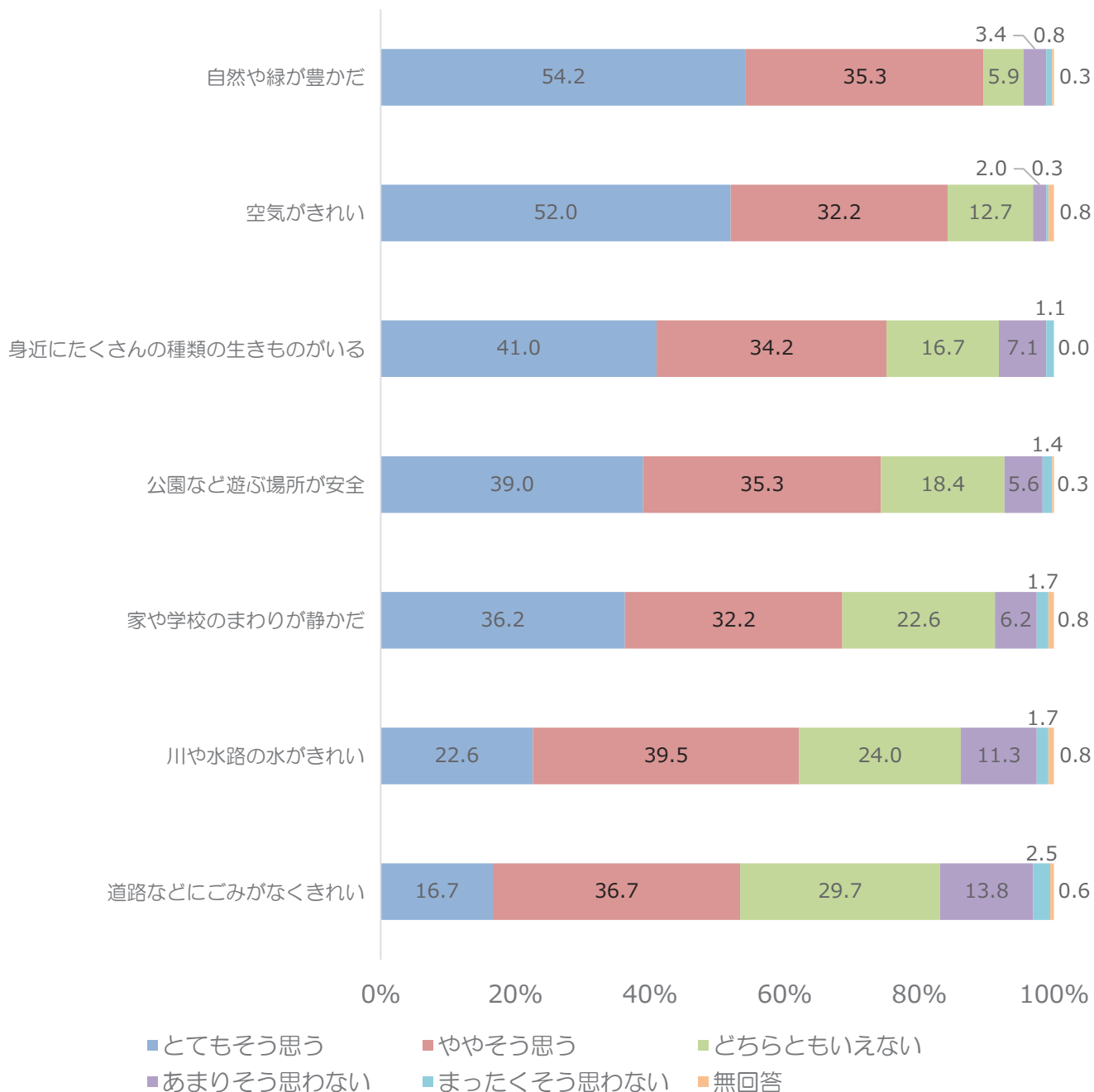
【3】 あなたのお住まいは次のうちどこですか？



回答者の居住地区は、ほぼ本市の地区人口比率及び児童・生徒の比率と同程度の数値となっており、回答に地域的な偏りはありません。

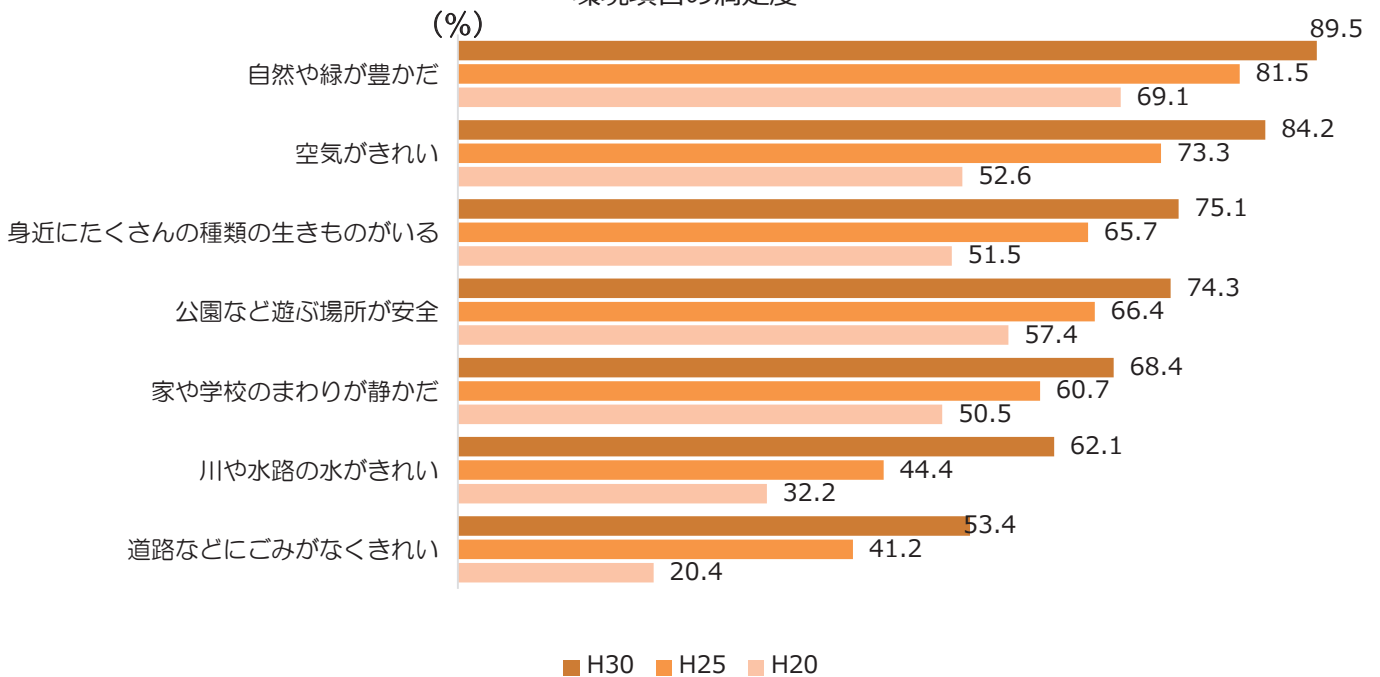
(2) あなたが環境について思うことや、あなたの生活について

【問 1】 身のまわりの環境についてどう思いますか？質問ごとに、1～5の中であてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。

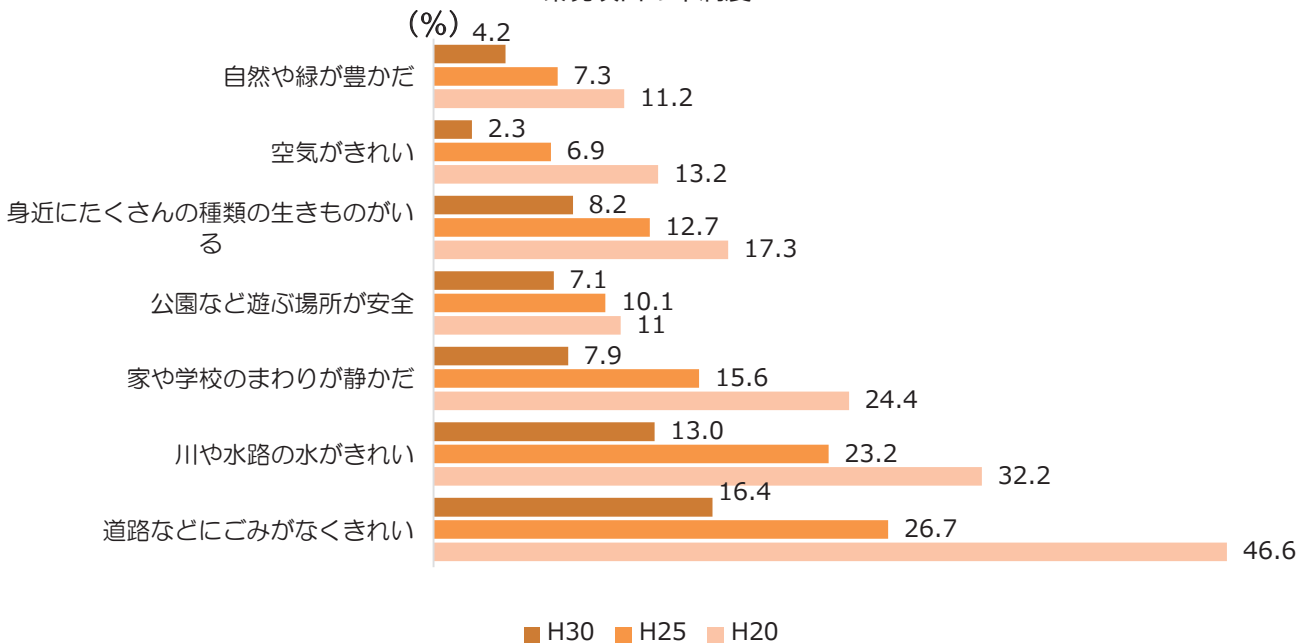


市民の調査結果と同様に「自然や緑の豊かさ」、「空気のきれいさ」に高い満足度となっています。一方、相対的に満足度が低い項目も、市民の調査結果と同様で「川や水路の水のきれいさ」、「道路などのごみの少なさ」が挙げられています。

環境項目の満足度



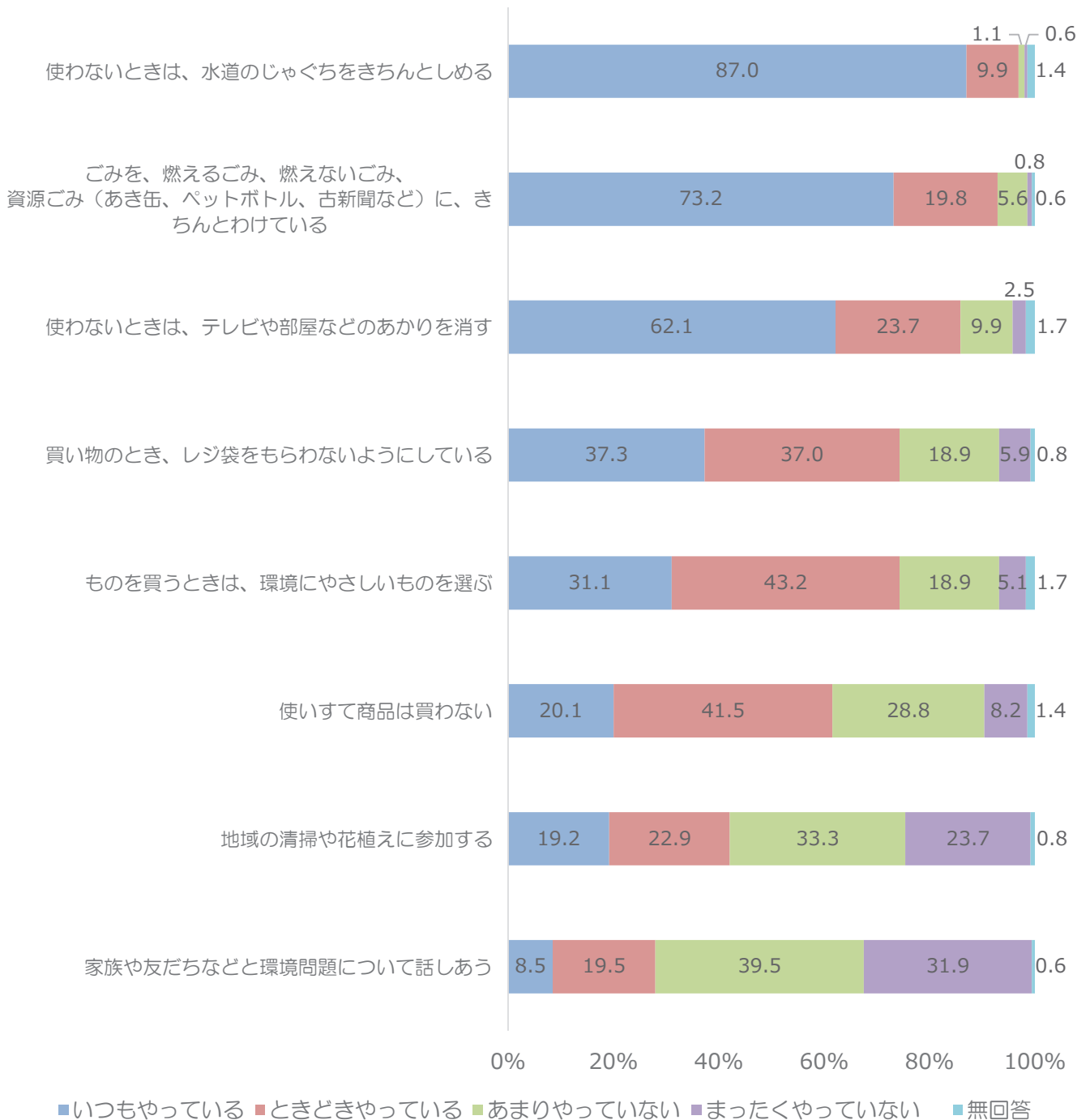
環境項目の不満足度



本市の生活環境、自然環境に関する項目について、過去2回の調査結果と今回の調査結果の比較を上記グラフに示しました。

今回の調査結果は、全ての項目で児童・生徒の満足度が向上し、不満足度が減少している、非常に特徴的な結果となっています。

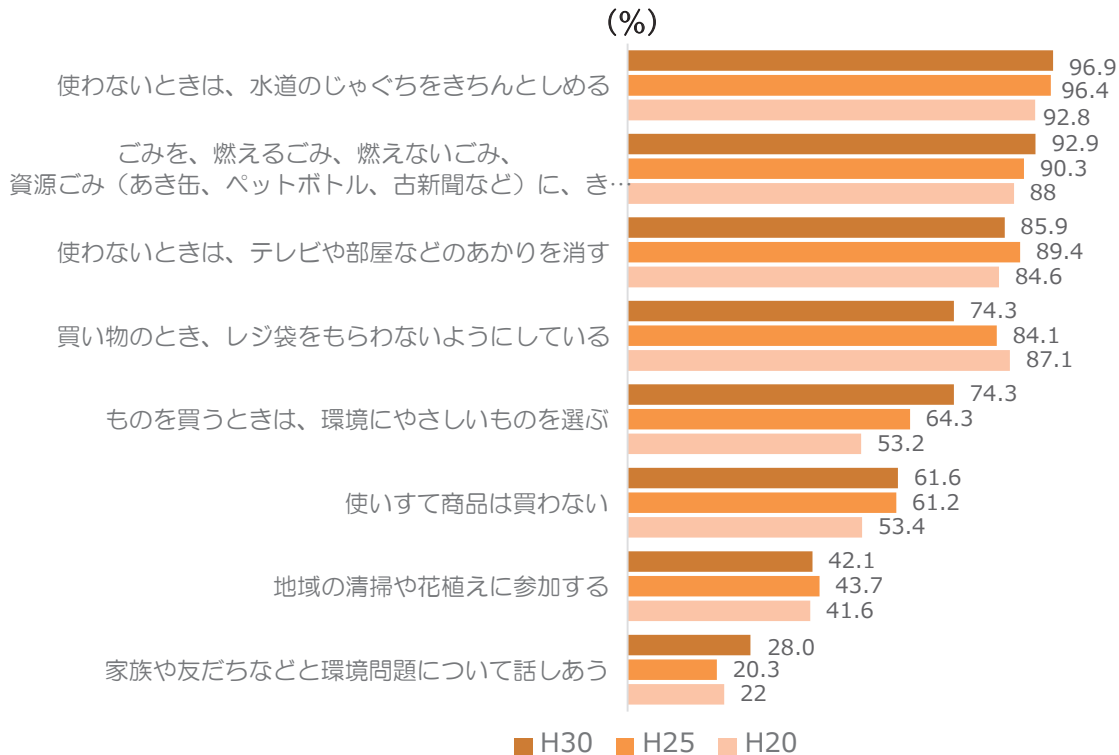
【問2】 日ごろから次のようなことをしていますか？質問ごとに、1～4の中であてはまるものを1つ選んで、番号に○をつけてください。



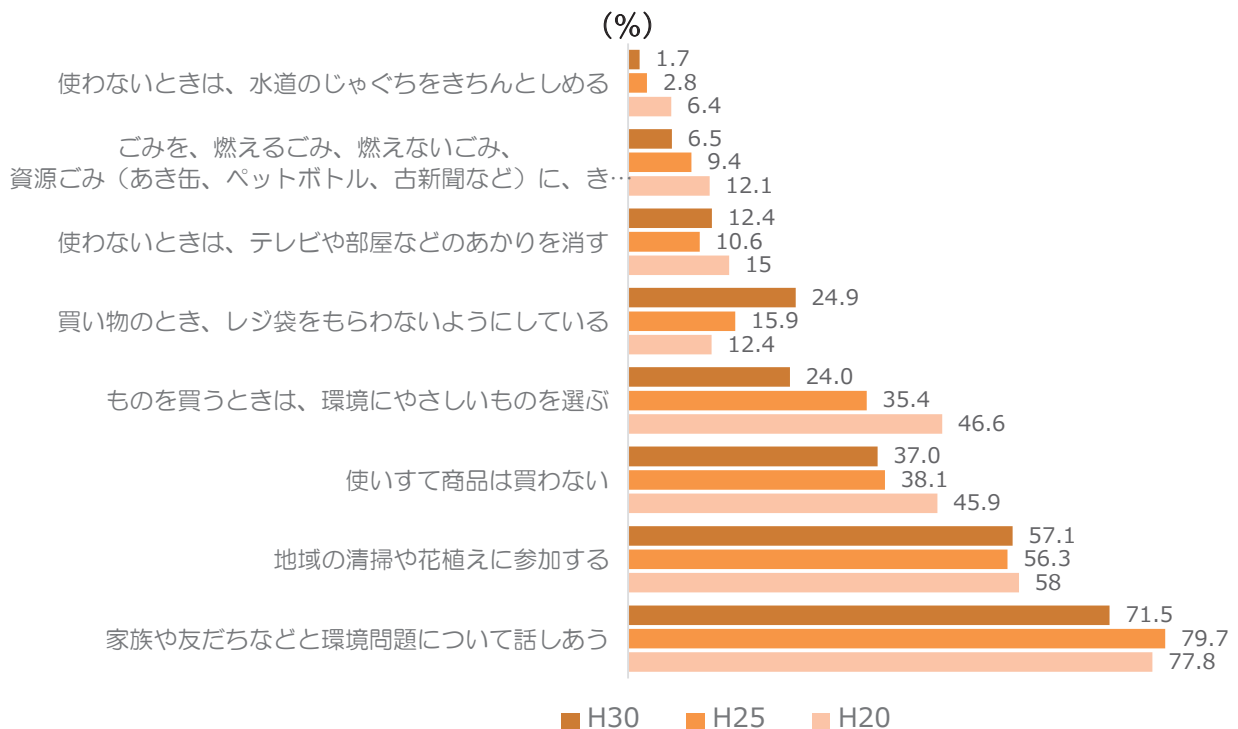
「水の節約」、「ごみの分別」、「電気の節約」が上位の項目となっていました。

この結果は市民へのアンケートの結果とほぼ同様な傾向を示しており、各家庭においてもこれらの行動が浸透しているものと思われます。

《環境配慮活動を 積極的に心がけている》



《環境配慮活動を あまり心がけていない》

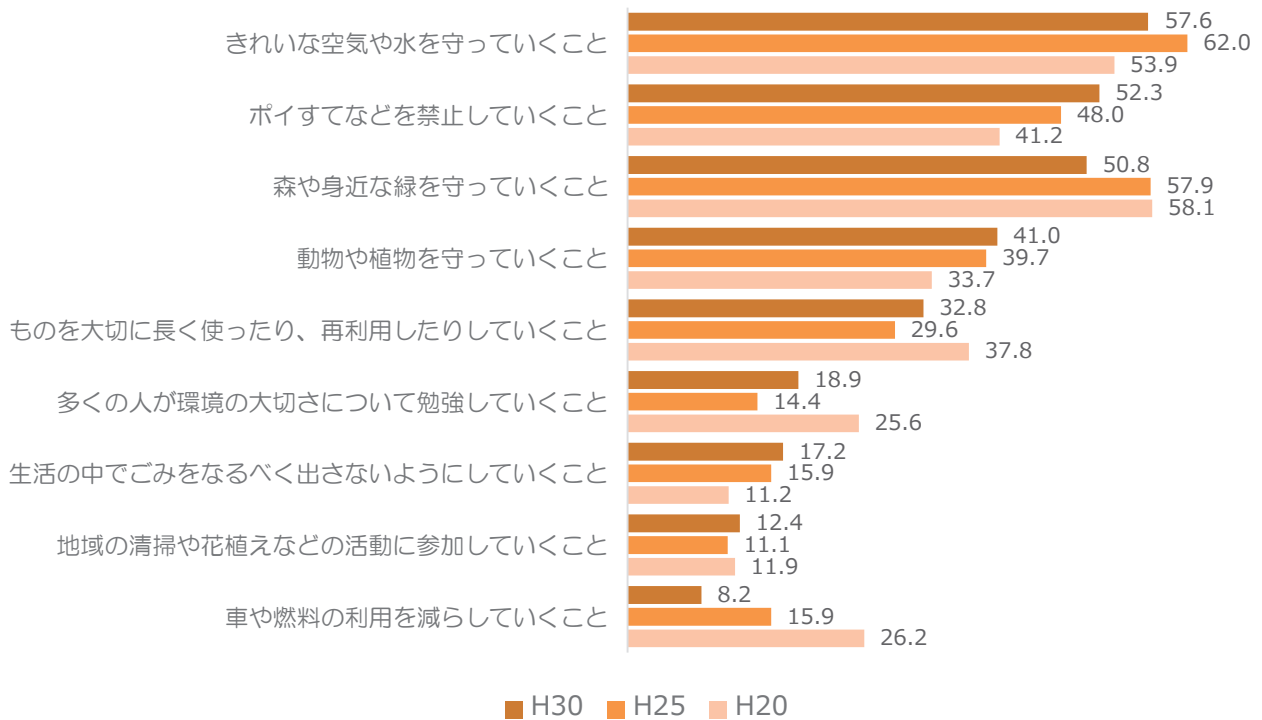


過去2回の調査結果との変化の状況を示しました。

積極的に取り組んでいる項目は、節水、節電、ごみの分別等で、この10年間で大きな変化は見られませんが、特徴的な傾向として「ものを買うときは環境にやさしいものを選ぶ」、「使いすて商品は買わない」の項目が10年前の調査結果と比較し、増加しています。

【問3】 中央市の環境を守り、良くしていくために、どんなことが必要だと思いますか？

次の中から特に大切だと思うことを3つ選んで○をつけてください。



本市の環境を守り、良くしていくためにどのようにしていくべきかの質問に対しては、取り組むべきと考える上位3項目に変化は見られません。

「動植物を守っていくこと」、「生活の中でのごみを出さないようにする」の2項目については重要度が高まっています。



【問4】 2027年開業予定の「リニア中央新幹線」について、「期待すること」と「気になること」を、ご記入ください。

【期待すること】

- ①地域の活性化、人口が増える、観光客が山梨におとずれる、山梨がにぎやかになる、外国人も来て日本が豊かになる、山梨に移住する人がふえる
- ②便利になる、移動が楽になり、いつでも利用できる、都心が近くなる、関西にも近くなる
- ③早く見たい、早く開通してほしい、スピードを見たい
- ④山梨県が有名になること、中央市が人気になること、田舎が有名になること、山梨が発展すること
- ⑤運賃を安くしてほしい

児童・生徒は、地域の活性化、都心や関西が近くなり、観光客が増えたり、移動が便利になる等をプラスの要因として挙げていました。

【気になること】

- ①夜間の走行について、騒音や振動が心配
- ②工事の音、ダンプカーなど交通量が増える
- ③山梨県や中央市のために本当にプラスになるのか、山梨は素通りしてしまう、いなかのイメージが崩れる。日影にならないか、森や緑に影響ないか、電磁波の影響はないか、自然に影響はないか等
- ④安全性、事故が起きたら怖い、どれくらい速いのか、チケットの値段、必要な電力はどのくらいか
- ⑤リニアのために移転しなければならない人のこと、北小がなくなること、色々な建物が壊されること

児童・生徒の一番気になり心配とする点は、リニア走行による騒音や振動をあげていました。また、関連する環境への影響や安全性についても関心を示していました。

特に、⑤の工事により家を解体したり、移転しなければならない家庭、思い出のある校舎や建物の取り壊しに、心配やさみしさを感じている児童・生徒が多数存在していました。

【問5】 最後に、あなたの住む場所がどんなふうであってほしいか、環境を良くするためにどんなことをしたいと思っているかなど、意見があったら教えてください。なんでもけっこうです。

- ①リサイクル、分別活動
- ②自然の保護、動植物を守る
- ③緑豊かなまち、川や空気のきれいなまち、花などの植物を植える
- ④ポイ捨てしない、ごみがなくきれいなまち
- ⑤温暖化を防止する
- ⑥洪水が心配、安全なまち、公園や安全に遊べる場所、公園の整備
- ⑦地域のふれあい、住民の交流・清掃活動、環境ボランティア活動への参加、積極的な地域でのエコ活動、話し合いで環境保全の意識を高めること

児童・生徒の多くは、「ポイ捨てのごみがなく、きれいなまち、緑豊かで川や空気のきれいなまち」を望んでいます。そのために、地域での環境ボランティア活動を積極的に行うための、地域内コミュニケーション、地域の人と人とのふれあいの場を大切にすべきと考えています。また、動植物の保護についても関心を高く持っています。

児童・生徒の意見から(特に⑦の意見)、大人の世代が反省すべき重要な視点が得られものと思われま

